

飯能市郷土館館報

郷土館のプロフィール

(活動報告書)

第2号

平成8年度

〜

平成10年度



故^{ふる}きを温^{たず}ねて

飯能市教育委員会
教育長 須藤澄夫

飯能市郷土館館報第2号をお届けします。第1号は開館した平成2年度から7年度までの活動を報告させていただきました。第2号は平成8年度から10年度までのものです。

郷土館はその条例第1条が示すとおり「郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため」の地味な施設ですが、市民の方々のご支援をいただき着実に仕事を重ねてくることができました。館報第2号を発行にするにあたり、厚くお礼申し上げます。

とりわけ近年の特別展は評判よく、平成8年度の「猫・ねずみ ー絵ぞうし展ー」、9年度の「明治ハイカラ美人 ー手彩色絵葉書ー」、10年度の「高麗の里の独楽展 ー昔遊びのすすめー」などは、すぐにタイトルや内容を思い起こされる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そのほか、10年度の「時の記憶 ー飯能の写真展ー」をきっかけに市民参加の定点撮影プロジェクトが立ち上がったのも私どもをたいへん勇気づけてくれたことの一つでした。

なぜ私たちは故きを温ねるかということと温故知新の熟語が教えてくれるように新しきを知るためですが、新しきを知るとは後世に伝えるに値する新しい見解を得ることで、流行に乗ることとは似て非なるものです。また、故きを温ねて思考そのものが故くなってしまっは意味がありません。ミイラ取りがミイラにならないよう心しなくてはならないことと思っています。

とまれ、先達の豊かな知恵や生活ぶりを目の前の人に分かりやすく提示し郷土愛を育むのは当館の大切な役割です。21世紀はおそらく郷土愛をしっかりもったグローバルな精神が望まれるでしょう。平成12年3月のこの春、当郷土館は博物館としての登録が許可されました。これを励みに一層の努力を重ねてまいりたいと存じますので、今後とも市民の皆さまのご支援ご協力をよろしく願いいたします。

第2号

飯能市郷土館館報

目次

あいさつ.....	1
目次	2

第1章 施設

建物平面図.....	4
面積表.....	5
常設展示の概要.....	6

第2章 事業

郷土館の役割.....	8
年度別事業一覧.....	9
展示	
（各年度の特別展）.....	12
（その他の展示）.....	28
講座・学習会.....	31
資料・施設の利用.....	35
学校の利用.....	40
レファレンスの対応.....	41
収集.....	42
整理・保存.....	45
調査・研究.....	47
郷土館協議会.....	48
常設展示等企画委員会.....	50
博物館実習.....	51

第3章 各種データ

入館者数.....	54
歳出予算.....	55
図書資料寄贈機関.....	56
刊行図書・職員.....	58
飯能市郷土館条例・規則.....	59

第1章 **施設**

CHAPTER 1

面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位 m²)

室名	面積	室名	面積
1 階	497.458	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	車椅子用トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
		エレベーター	7.500
2 階	959.774	R階	40.040
常設展示室	273.965	階段	15.846
特別展示室	59.850	階段ホール	15.944
展示倉庫	20.675	エレベーター	8.250
展示ホール(1)	139.750		
展示ホール(2)	88.128		
エントランスホール	103.131		
		合計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 容	面積(m ²)	割合(%)
教育普及	展示(常設・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他(学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査・研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.72	25.2
		1,497.272	100.0

〈その他〉

敷地面積 3,404.12m²

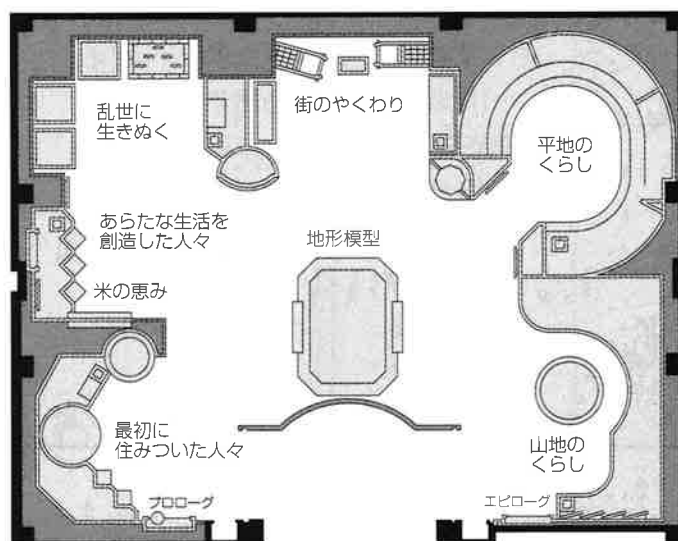
建築面積 1,165.999m²

常設展示の概要

常設展示は下図のように地形模型を中心とした9つのテーマから構成され、飯能の歴史が旧石器時代から現代まで時代を追ってわかるようになっている。

〈展示構成上の留意点〉

- ①市民にとっては郷土学習をするためのきっかけを与えてくれる展示であり、市外からの来館者には飯能を紹介するための展示とする。
- ②子どもからお年寄りまで幅広い年齢層に親しみやすく、印象に残る楽しい展示にする。
- ③入館者が展示を「見る」だけでなく、「考え」「学習できる」ような展示とする。
- ④入館者に各時代の特徴が感じとれるようにするとともに、各時代に生きた人々の考え方や「生きざま」が伝わってくるようにする。
- ⑤他に見られない飯能独自の展示をめざす。



○展示資料の変更

常設展示室に展示されている資料の損傷を防ぎ、展示を充実させるため下記のとおり展示資料の交換、追加を行った。

〔変更〕

「街のやくわり」(近世～近代)のコーナー

黒田直重寄付状及び市指定文化財となっている振武軍廻文しんぶぐんまわみの複製資料を製作し、実物資料と交換した。(平成9年3月)

〔追加〕

「街のやくわり」(近世～近代)のコーナー

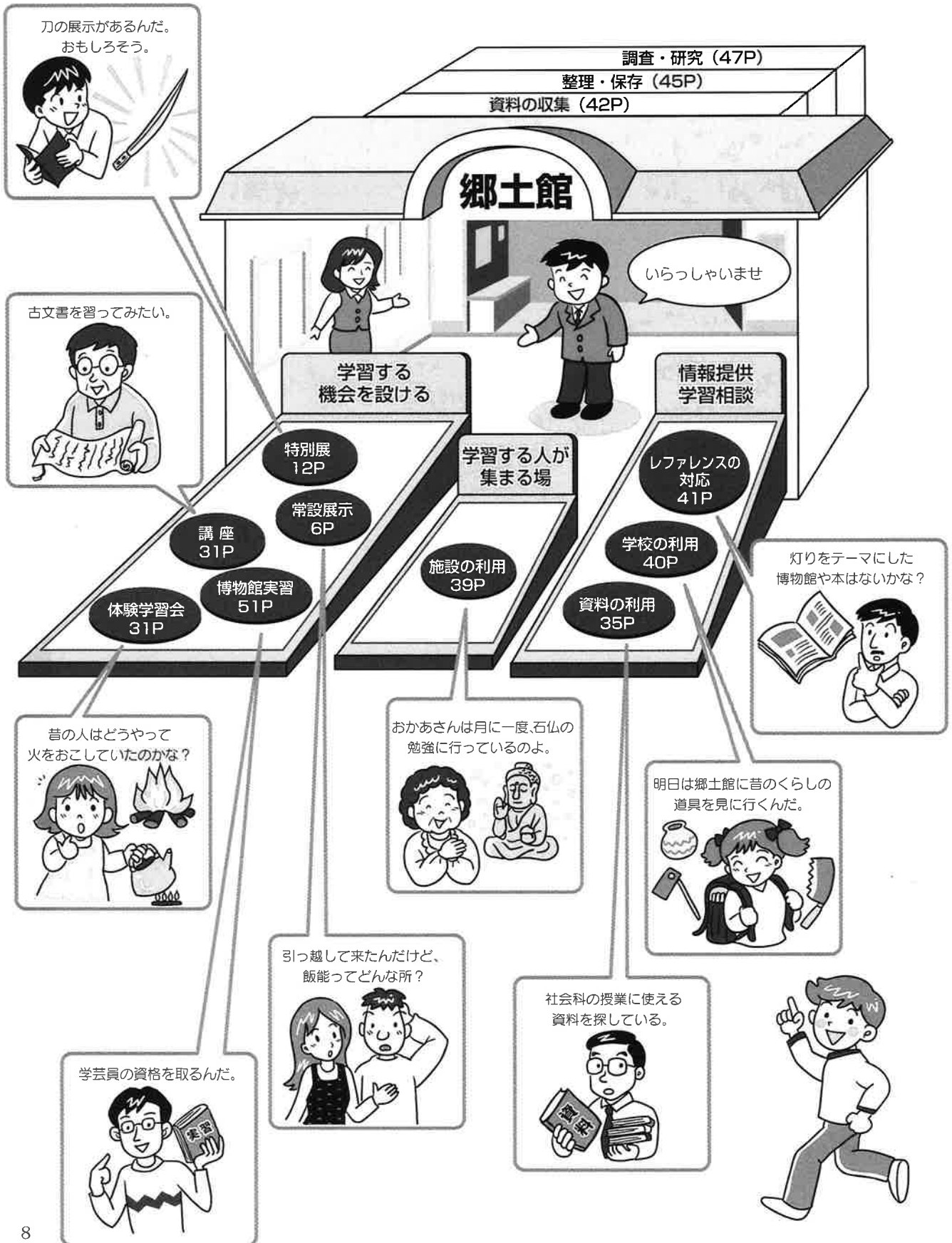
市指定文化財となっている双木本家飯能焼コレクションのうち7点(瓢形小鉢・桃形小鉢・麦文小皿・梅花文下地差2点・紅葉葉文蓋・花文蓋)をのぞきケースに入れて追加した。(平成9年9月) ※特別展期間中を除く

また、常設展示の内容や館内の施設を案内するためのリーフレット(A3版変型・四ツ折り)を、デザインを一新して20,000部印刷し、平成9年3月より配布を始めた。

第2章 事業

CHAPTER 2

郷土館の役割



年度別事業一覧

【平成8年度】

特別展・その他の展示

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
4月3～7日												「白木正一・早瀬龍江寄贈作品展」
4月27日～6月23日												「猫ねずみ -絵ぞうし展-」
						10月15日～11月17日						「飯能の刀匠 -小沢正壽を中心として-」
						7月11～30日						双木本家飯能焼 コレクションⅢ
						8月6日～9月1日						出土品展「掘り起こせ！古代からのメッセージⅣ」
									12月7日～2月2日			双木本家飯能焼 コレクションⅣ

講演会・学習会

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
5月19日												講演会 「十二支の内外」
				6月16日								ミニ講演会 「猫・ねずみ、絵ぞうし」
				8月7～9日								夏休み子ども歴史教室
				8月11日・25日								出土品展展示説明会
								10月20・27・11月10日				刀剣製作工程実演会 (樋搔き、土置き)
								11月4日				居合抜刀術実演会
								11月9日				「飯能の刀匠」展展示解説
								11月10日				講演会 「小沢正壽刀匠の作品とその人物」
【民事民俗行事のつどい】				①8月4日②9月8日				③2月2日④3月2日				①「七夕飾りとゆでまんじゅう作り」 ②「十五夜と団子作り」 ③「節分」 ④「ひな祭り」
								10月27日				金属文化講演会 「三田一族を語る」

その他

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
						7月30日～8月14日						博物館実習

【平成9年度】

特別展・その他の展示

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
3月22日～5月11日												「明治ハイカラ美人 -手彩色絵葉書-」
							10月15日～11月30日					「祈りのメッセージ -飯能の絵馬-」
				7月12日～8月31日								双木本家飯能焼 コレクションV
						9月10～23日						ミニ展「小沢寿久作品展」
								1月18日～3月1日				双木本家飯能焼 コレクションVI

講演会・学習会

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
4月6日												講演会 「幕末・明治おもしろ写真」
4月27日												明治写真館
5月10日												写真手彩色体験講座
5月18日												金属文化講演会 「ウォルター・ウエストンの見た 明治の日本アルプスと日本」
					8月6～8日							夏休み子ども歴史教室
							10月19日					体験学習会「絵馬を描こう！」
							10月25日					絵馬製作実演会
							10月18日・11月8・16日					「祈りのメッセージ」展 展示解説
								11月9日				講演会 「埼玉の絵馬をめぐる」

その他

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
				7月29日～8月9日								博物館実習
			7月1日～5日									燻蒸

【平成10年度】

特別展・その他の展示

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
4月1日～5月31日						「高麗の里の独染展 －昔遊びのすすめ－」					
						10月15日～12月6日					
						「時の記憶 －飯能の写真展－」					
						8月4日～9月6日					
						出土品展「掘り起こせ！古代からのメッセージV」					
						9月12～22日					
						郷土館ギャラリー「うちおり展」 (飯能の織物研究会主催)					
						9月13～22日					
						中学生社会科研究展					

講演会・学習会

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
4月19日				講演会「コマの歴史」							
5月5日				江戸独染製作実演会							
5月17日(午前)				コマ回し青空教室							
5月17日(午後)				コマ回し・ベーゴマ大会							
4月18日・5月10・17・24・31日				やさしい古文書講座							
6月21日				金属文化講演会 「三田氏の支配形態」							
8月1・2・9日				夏休み親子歴史教室							
				①11月1日②11月2～8日③12月6日				【定点撮影プロジェクト98】 ①打合会 ②撮影 ③記録会・反省会			
				11月29日				講演会 「記録写真のすすめ」			

その他

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
						7月29日～8月11日					
						博物館実習					
						7月14日～18日					
						燻蒸					

白木正一・早瀬龍江寄贈作品展

期 間	平成8年4月3日(水)～4月7日(日)			
開館日数	5日			
入館者数	1,576人(1日平均315.2人)			
展示点数	149点			
総費用	1,203,708円(入館者1人あたり763.8円)			
(内訳)	印 刷 費	453,200	賃 金	4,500
	写真関係費	24,473	旅 費	300
	展示委託料	266,481	事務通信費	30,040
	消耗品費	14,914	会場借上料	109,500
	報 償 費	300,300		

1 趣 旨

平成7年度に、白木正一画伯より飯能市へ自作の絵画約90点が寄贈された。氏はアメリカに渡り、絵画の修業をした後、飯能市へ居を構えていた。近代絵画のシュールレアリズム・アクションペインティングを得意とし、市内の多くの画家を育てた氏を顕彰するため、氏の作品と夫人でやはり画家の早瀬龍江氏の作品を展示する絵画展とした。

一部購入した作品もあるので、どのような作品が寄贈されたのかを市民の皆さんに見ていただき、その作品から氏の人となりを感じてもらうことを目的とする。



展示風景 (市民会館展示室)

2 展示の構成

[会場Ⅰ](郷土館特別展示室・展示ホール)

白木正一氏「白象と阿羅漢」、「ウェイブ」(屏風仕立て)、早瀬龍江氏「のぞみありや」、「堆積苦悩」などの大型の作品を中心に24点を展示した。そのほか白木正一氏のアトリエを会場に復元したり、早瀬龍江氏の二元絵画「作品」体験コーナー(ブラックライトを当てると別の絵が浮かび上がる)を設置した。

[会場Ⅱ](市民会館展示室)

会場Ⅰ以外の作品125点を早瀬龍江画伯の紹介と合わせて展示した。

3 印刷物

ポスター(B 2版4色刷)	300部
パンフレット(B 5版4ページ4色刷)	1,000部
絵葉書	1,000枚

4 関連行事

なし

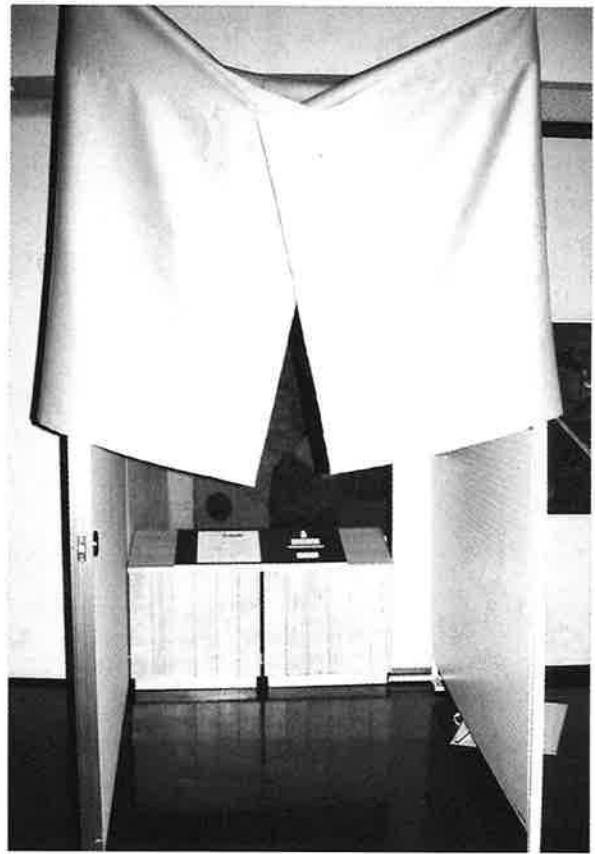
5 企画委員

大久保秀人氏・大野邦弘氏・大野道治氏・木崎芳之氏・黒田幹太郎氏・児嶋邦三氏・土屋久男氏・三好一雄氏・村岡和雄氏・村岡孝雄氏・山崎金幸氏(以上飯能美術家協会)・小久保さわ子氏・坂入徳次郎氏・中里光男氏・吉田利喜氏・渡辺典子氏

6 評価

日本においては、一般的に抽象画を見ると人々は「よく分からない」という感想を口にする。白木正一氏の絵は抽象画なので、やはりそのような意見が多かった。しかし、抽象画も見慣れてくるとその良さがわかってくるものである。したがって今回の展示会では抽象画に対する固定観念を少しでも払拭し白木正一・早瀬龍江両画伯の絵に慣れ親しんでもらうことが必要とされた。そのためにできるだけ多くの絵を展示したわけだが、さらに来館者に興味をもって見てもらうために、展示倉庫を利用して早瀬龍江氏の二元絵画を展示し、スイッチを押すとブラックライトが点灯して、別の絵が浮かび上がることを体験してもらった。実際、中でスイッチの切替をして絵画を見た人には楽しんでいただけたようだが、少々入りづらくスイッチも目立たなかったため、カーテン越しに中を覗いただけでいってしまう人も多かった。また、白木正一氏の人となり表現するために、アトリエを実測し、道具や描きかけの絵を持ち込んでその復元を試みたが、そもそもアトリエが乱雑な状態であったため、正確に再現したという事が伝わらなかった。実測図も併せて展示したほうがよかったかもしれない。今回は開会間近の4月1日付けで担当者が異動してしまい大変であったが、白木正一画伯のご薫陶を受けた飯能市美術家協会の方々の協力により何とか開催することができた。

(担当者による評価)



二元絵画「作品」体験コーナー



白木正一氏のアトリエ復元

猫・ねずみ — 絵ぞうし展 —

期 間	平成8年4月27日(土)～6月23日(日)		
開館日数	50日		
入館者数	6,543人(1日平均130.9人)		
展示点数	107点		
総費用	2,471,417円(入館者1人あたり377.7円)		
(内訳)	印刷費 1,266,385	消耗品費 142,758	
	写真関係費 76,271	報償費 247,700	
	展示委託料 145,333	賃金 19,200	
	資料保険代 8,740	旅費 39,400	
	資料借料 400,000	事務通信費 125,630	

1 趣 旨

江戸時代末期、女性や子ども、家族向けに作られた木版画がたくさん出回ったが、その画面の中からは、当時の風俗、風刺、娯楽を読みとることができる。また、当時なじみの深かったと思われる猫・ねずみたちを擬人化し、豊かな表情を作り出した職人の技には目を見張るものがある。それもそのはずで、当時一流とも考えられる浮世絵師もこういったものを描いていたのである。

今回の特別展では、このような絵ぞうしを中心に、猫とねずみを描いた家族向けの出版物をとりあげ、当時の庶民の文化に触れてもらうことを目的とする。



展示風景

2 展示の構成

(1) 絵ぞうしの読み方

① 絵ぞうしをよむ

「志ん板猫の世界」(歌川国利画・明治期)を例にとり、変体仮名を現代仮名遣いに直し、それに刷り込まれている絵師や版元について解説し、絵ぞうしの見方を理解してもらう。

② 絵ぞうし

「五十三次之内猫之怪」(一鵬斎芳藤画・江戸末期)、「ちんわんぶし」(一英斎芳艶画・江戸末期)、「志ん板猫のどうづき」(幾飛亭画・明治16年)等を額に入れ展示した。

③ 双六

「家族双六」(竹久夢二画、大正5年)を展示した。

④ 十六武蔵

「新案競技鼠狩」(加藤星児画、大正12年)を展示した。

⑤ 組立絵・変わり絵

組立絵は「先代萩御殿場組上(三枚つづき)」(明治45年)、変わり絵は「志ん板えかわり」(一鵬斎芳藤画)などを展示した。

(2) 猫・ねずみの信仰

絵ぞうしの中には、当時の猫、ねずみに関わる信仰が読みとれるものがある。その中でも飯能にもなじみの深い養蚕、あるいは庶民に親しまれてきた大黒に関わるものを取り上げた。

①猫と養蚕

「新田猫」(鼠よけ用の掛け軸)、「国華養蚕之葉」(周延画)などを展示し、猫と養蚕の関係について、埼玉県事例を引き合いに出して解説した。

②ねずみと大黒

「志ん板ねづみのたわむれ」(明治中期)、「志ん板道外七福神」(明治18年)などの資料から大黒とネズミがセットで描かれている理由について解説した。

(3)物語の中の猫・ねずみ

「大黒舞」(上方絵本・18世紀)や「どんたく絵本」(竹久夢二画・大正12年)など江戸時代中期から昭和初期にかけて、子ども向け、女性向けに書かれた猫・ねずみの物語で冊になっているものを展示した。

3 印刷物

ポスター(B 2版4色刷)	300部
ちらし(B 5版4色刷)	5,000枚
展示図録(B 5版48ページ4色刷)	1,000部

4 関連行事

◎講演会「十二支の内外 -猫・ねずみ・人-」

日時 平成8年5月19日(日)午後2時～
 講師 アン・ヘリング氏(法政大学教授)
 会場 当館学習研修室
 参加者 56人

◎ミニ講演会「猫・ねずみ、絵ぞうし」

日時 平成8年6月16日(日)午後2時～
 講師 アン・ヘリング氏(法政大学教授)
 会場 当館学習研修室
 参加者 26人

5 企画委員

大野邦弘氏・坂口和子氏(以上郷土館協議会委員)、浅野哲示氏

6 評価

今回の特別展は、法政大学のアン・ヘリング教授のコレクションを中心にしたものであったが、教授は展示の構成を検討している時期にオーストリアに留学中であり、電話とFAXでのやりとりによる準備であったため、十分な意志疎通が図れなかった。そのため先生と館側で図録に対してイメージしてい

るものが一致していないなどの混乱があり、非常に手間取った部分もあった。しかし、入館者数も多く、展示を見てくださった方からの反響はかなりよかった。

来館者の層も、絵ぞうしに興味のある人ばかりではなく、「猫」という題材は思わぬところからの反響ももたらした。猫自体が好きな方を対象とした月刊誌『猫の手帖』6月号に記事が掲載されたり、手芸のモチーフに使いたい、という目的で来館される人がいたりしたのがその例である。これまで郷土館にあまり足を運ばなかったと思われる人の流れもあり、その点では成功したといえるだろう。

(担当者による評価)



(1) ①絵ぞうしを読む 解説パネル



アン・ヘリング氏による展示解説

飯能の刀匠 — 小沢正壽^{まさとし}を中心として —

期 間	平成8年10月15日(火)～11月17日(日)		
開館日数	30日		
入館者数	5,053人(1日平均168.4人)		
展示点数	37点		
総費用	2,673,592円(入館者1人あたり529.1円)		
(内訳)	印刷費 1,021,532	消耗品費 267,738	
	写真関係費 154,227	報償費 407,700	
	展示委託料 335,625	賃 金 81,600	
	資料保険代 199,560	旅 費 19,160	
	資料借料 72,000	事務通信費 114,450	

1 趣 旨

昭和53年の新作名刀展にて高松宮賞を受賞した、飯能在住の刀匠小沢正壽氏が亡くなられてから、はや3年が経とうとしている。

実用から生まれた美しさと様式美とを合わせ持つ日本刀の製作技術を伝えてきた小沢刀匠の作風とその生涯を主に取り上げ、美術品としての日本刀の魅力を伝える。従来の日本刀の展示会は興味のある人のみを対象としているような難解なものが多かったので、従来の表現方法を反省し、解説、展示方法などを工夫して、一般の来館者にその魅力が伝わることを目的とする。

また、あわせて郷土の刀匠として、小沢寿久氏のほか幕末の刀匠小林英道、刀装を手がけた金工師、落合寿親の作品も展示する。

さらに、一般の来館者には馴染みがないが、興味をひくと思われる刀剣の製作工程については、その過程がわかる実物資料と映像資料とを利用して、職人の技を伝える。

2 展示の構成

(1) 日本刀の魅力

ここでは、来館者自らがケースの外から懐中電灯の光を刀に当てて観察しながら、反り恰好・地鉄・刃文といった日本刀の魅力を理解してもらうことを目的とした。展示資料は刀(銘：武州吾野住小沢正

壽作/昭和四十五年五月日)とした。

(2) 日本刀のできるまで

玉鋼からそれを鍛えて刀を作り、研ぎを経て銘を切るまでの工程を、小沢寿久刀匠の協力を得て写真と実物資料を使って展示した。

(3) 飯能の刀匠

現代刀匠の故小沢正壽氏の作品を中心に、その跡を継いだ小沢寿久刀匠、江戸末期の刀鍛冶である小林守重、小林英道の作品を展示した。また罫や目貫などを手がけた金工の落合寿親も合わせて展示した。(主な展示資料は以下のとおり)

① 小沢正壽

高松宮賞を受賞した刀(銘：徳正宗 正丸時住小沢正壽作/昭和五十二年仲秋)や太刀(銘：小沢正壽作/昭和四十五年二月日)、脇指(銘：以白鷺



展示風景 (特別展示室)

城古鉄小沢正壽作／昭和四十年八月日)、「偲蚩丸」
全身挿形など

②小林守重

脇指(銘：於東都小林守重造之／安政二年中春日)

③小林英道

市指定文化財である刀(銘：武蔵国住小林英道作
之／明治二巳年八月吉日)

④小沢寿久

刀(銘：正丸峠住小沢寿久作／平成乙亥弥生努力
賞受賞作之)など

〈付落合寿親〉

市指定文化財となっている打刀拵や錬鉄象嵌香炉、
寿親の書簡など

3 印刷物

ポスター(B 2版2色刷)	300部
パンフレット(A 4版1色刷4ページ)	1,500枚
展示図録(A 4版60ページ一部4色刷)	1,000部

4 関連行事

◎刀剣製作工程実演会(樋搔き・土置き)

日 時 平成8年10月20日(日)・11月10日(日)
午前9時～・10月27日(日)午後2時～

実演者 小沢寿久氏(刀匠)

会 場 当館展示ホール

参加者 のべ170人

◎居合抜刀術実演会

日 時 平成8年11月4日(月)午後2時～

実演者 山口洞龍氏(武源流宗家修道館館主)ほか

会 場 当館玄関脇

参加者 171人

◎展示解説

日 時 平成8年11月9日(土)午後2時～

講 師 尾崎泰弘(当館学芸員)

参加者 5人

◎講演会「小沢正壽刀匠の作品とその人物」

日 時 平成8年11月10日(日)午後2時～

講 師 大野正氏(埼玉県刀剣保存協議会副会長)

会 場 当館学習研修室

参加者 61人

5 企画委員

滝鐘太郎氏(郷土館協議会委員)、細田栄能介氏・内
田芳夫氏・岡野達雄氏・佐野雄康氏・師岡順一氏
(以上飯能刀剣保存協議会)、小沢寿久氏(刀匠)

6 評価

刀の魅力と職人としての刀匠の技を伝えるという
この展示会の二つの目的は、会場内に置かれたノー
トに書かれた入館者の感想を見る限り、ある程度達
成されたように思われる。それは、1時間半を超え
る刀剣の製作工程のビデオを飽きずに見ている来館
者の姿、実演会・講演会の参加者の数、会期中に展
示図録が売り切れたことなどからも傍証されるであ
らう。その理由としては、日本刀が男性にとって非
常に関心のある素材であったことや、小沢刀匠が飯



刀剣製作工程実演会

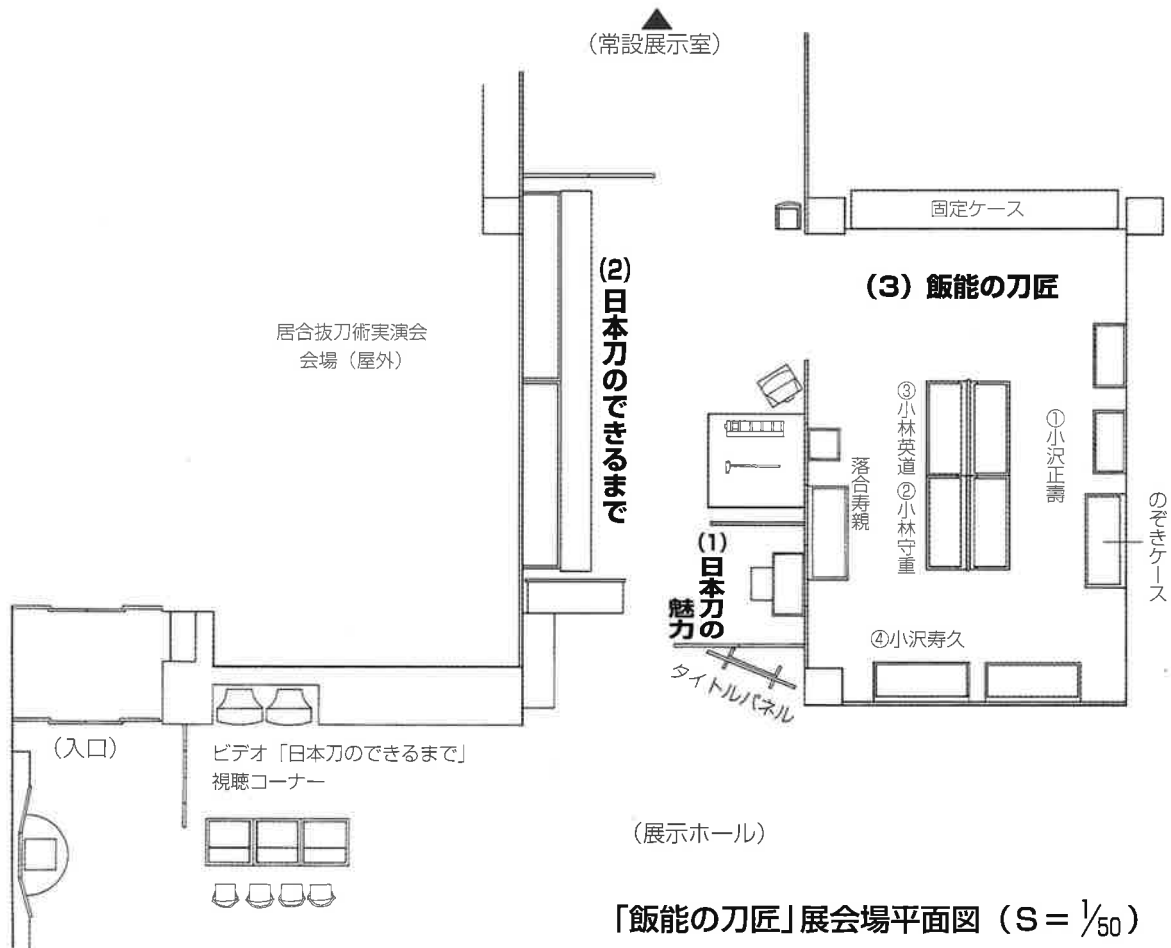
能に生まれ、飯能で作刀していた刀鍛冶であることが考えられる。また、小沢刀匠を初めとする飯能刀剣保存協議会のみなさんの力強いバックアップも展示の準備を順調にし、その結果ある程度の余裕をもって取り組むことができた。入館者の感想、意見は以下の通りである。(ノート記録者：28人)

- ・飯能市にこんなに素晴らしい刀匠がおられたことを知り感激した。(6人)
- ・刀を作るのにこんなに時間と手間がかかるなんて本当にすごいですよね。(3人)
- ・初心者にわかりやすく刀の世界にひたることができました。
- ・以前までは刀の美しさというものがいまいち良くわかっていなかったのですが、実際目の前にすると驚くほどきれいで、コレクターの気持ちがなんとなく分かったような気がします。
- ・日本刀のできるまでの説明はよくあっても、使われた刀が折れた時や欠けたり、ひびが入った、壊れたものの例も見たい気がします。

・日本刀には人を惹きつける何かがありますが、その美しさも「殺人道具」としての究極の機能美なのかなと考えると、こういうものを「美しい」と感じられる平和な時代であることに感謝したくなります。



居合抜刀術実演会



「飯能の刀匠」展会場平面図 (S = 1/50)

明治ハイカラ美人 — 手彩色絵葉書 —

期 間	平成9年3月22日(土)～5月11日(日)		
開館日数	43日		
入館者数	5,531人(1日平均128.6人)		
展示点数	115点		
総費用	2,624,909円(入館者1人あたり474.6円)		
(内訳)	印刷費 1,013,520	賃 金	62,400
	展示委託料 618,711	旅 費	17,920
	資料借料 450,000	事務通信費	69,960
	消耗品費 267,398	会場借上費	4,900
	報 償 費 120,100		

1 趣 旨

現在、様々な通信制度がある中で、郵便は日本でも古くから使われた手段であった。その郵便の中でも最も手軽な方法が葉書通信である。この方法が最初に日本で使われたのは明治33年のことであった。美しい絵や写真に通信文を書いて送れるというのは当時大変素晴らしい通信手段であったため、明治37年から40年頃には、一大ブームを引き起こした。

今回展示する資料は、この当時の女性をモデルにした絵はがきが中心となる。今の絵葉書にはない凝った作りや明治独特の服装など、明治時代の風俗や当時の人が考えた「西洋」のイメージが絵葉書を通して伝わることを目的とする。



展示風景 (特別展示室)

2 展示の構成

(1) 絵はがきの歴史

明治35年に官製の絵葉書が発行され、その後手彩色されたりして一大ブームとなるが、その歩みや種類、手彩色の様子などを解説した。

(2) 明治の美人絵はがき

明治時代の女性の絵葉書を、コスチュームにより「和服美人」、「洋装美人」、「ハイカラ美人」、「海水着美人」の四つに分け、額に入れて展示した。

(3) 絵はがきに関する資料

「逓信省発行の絵葉書」や「最新式エハガキ幻灯機」、「ステレオ写真セット」など絵はがきに関係のある実物資料を展示した。

3 印刷物

ポスター(B2版5色刷)	300部
パンフレット(A4版5色刷16ページ)	4,000枚

4 関連行事

◎講演会「幕末・明治おもしろ写真」

日 時	平成9年4月6日(日)午後1時30分～
講 師	石黒敬章氏(石黒コレクション保存会)
会 場	市民会館202会議室
参加者	30人

◎体験学習会「明治写真館」

日 時	平成9年4月27日(日)午後1時30分～
-----	----------------------

写真師 清水啓二氏
会場 当館休憩コーナー
参加者 51人

◎写真手彩色体験講座

日時 平成9年5月10日(土)午後2時～
講師 森山芳正氏(株式会社東京写真印刷所)
会場 当館学習研修室
参加者 11人

5 企画委員

滝鐘太郎氏・桑山和子氏(以上郷土館協議会委員)、
岡崎孝氏

6 評価

美人絵葉書4枚の中から自分が一番美しいと思う女性を投票し、その中から各1名の方に抽選でその写真パネルをプレゼントする、という案が企画委員会で出され、その応募用紙にアンケートを抱き合わせて実施したところ800通もの回答があった。40歳後半以上の方はノスタルジーを感じ、40歳以下の世代では現代の女性とスタイルや化粧などを比較してみる人が多かった。全体的に好意的な意見が多く、

企画内容や解説文のおもしろさ、気安さなどが評価されたようである。アンケートに記された感想は以下のとおりである。

- ・明治の人々も今の人々と変わらない。
- ・現代の女性と体型や眉の形、服などが違う。
- ・時代によって美人の評価は変わっている。
- ・亡くなった両親を思い出した。
- ・ノスタルジーを感じた。
- ・日本の古き良き時代の雰囲気が伝わってきた。
- ・解説がユーモアに富んでいておもしろい。
- ・飯能とどういう関係があるのか、展示趣旨が不明である。
- ・鹿鳴館スタイルの絵が見られるのかと思ってきたがなくて残念。
- ・もう少し展示点数が多ければよかった。

当館ではこれまでも、平成4年度春の「写真に見る幕末・明治」や平成8年度春の「猫・ねずみ ー絵ぞうし展ー」といった個人のコレクションを借用しての特別展を開催してきた。これらは飯能とは直接関係のないと思われるものであるが、それは日本文化の良さが伝わるような資料、企画であれば設立の趣旨には矛盾しないと考えているからである。



ポスター

(点線で切り取ると絵葉書として使えるようになっている)



写真手彩色体験講座

「祈りのメッセージ」 — 飯能の絵馬 —

期 間	平成9年10月15日(水)～11月30日(日)	
開館日数	41日	
入館者数	4,633人(1日平均113.0人)	
展示点数	37点	
総費用	3,483,819円(入館者1人あたり752.0円)	
(内訳)	印 刷 費 1,559,250	消 耗 品 費 105,970
	写真関係費 202,904	報 償 費 187,160
	展示委託料 835,380	賃 金 63,180
	資料運搬費 309,480	旅 費 11,235
	資料保険代 30,000	事務通信費 121,860
	資料借料 52,000	会場借上費 5,400

1 趣 旨

平成8年度に市内の絵馬の悉皆調査報告書が刊行され、そこからは庶民の信仰のあり方や飯能市域の歴史の特徴が看取できる。今回はその成果を展示するものである。

絵馬奉納の習俗が庶民にまで広がってくるのは江戸時代に入ってからであるが、小絵馬には祈願の内容と関係する絵が描かれ奉納されてきた。そこには奉納された寺社の御利益に対する深い信仰心が現れており、絵馬の絵柄の違いもそれなしでは理解できないものが多い。また大絵馬についても、その絵柄と寺社の関わりが明確でないものが多いとはいえ、奉納するという行為そのものは、その寺社に対する奉納者の信仰心をあらわすものである。そこで、今回の展示では、絵馬の図柄とともに、奉納先の寺社に対する信仰をもうひとつの焦点とし、近世から近代にかけての庶民の信仰のあり方を伝えることを目的とする。



展示風景 (特別展示室)

なお、調査報告書がその性格上広く網羅した内容であるので、展示については展示資料を絞って深く追究していくことにする。

2 展示の構成

(1) 絵馬の歴史

導入として、絵馬が庶民の祈りを神仏に伝える装置となっていく過程を、浜松市伊場遺跡出土絵馬や「天狗草紙」、「不動利益縁起」などの絵画資料の写真とともに解説した。

(2) 飯能市内の小絵馬とその信仰

唐竹の諏訪神社や上畑の宝光寺地藏堂、稲荷町の秋葉神社など小絵馬が今でも奉納されている市内の寺社をとりあげ、その信仰を写真とともに例示した。ここが「祈りのメッセージ」というタイトルと直接的に結びつくところになる。

(3) いろいろな絵馬

ここでは、ガラス製の「軍人拝み図絵馬」(中藤中郷白鬚神社)や漆喰でできた「白狐図絵馬」(岩渕妙円寺稲荷社・明治43年)などを紹介し、絵馬の素材にもいろいろあることを示した。また飯能市内には二十四孝の絵馬(額)が三ヶ所も残っており、県内では珍しいので、観音寺のそれを実物と写真で説明した。

〈小絵馬の絵解き〉

小絵馬の絵柄から、それが何を祈願したものかをクイズ形式で考えるコーナー。

〈郷土の絵馬師〉

飯能にも以前は小槻敬助・正信という2代にわたる絵馬師がいたが、その二人を紹介した。

(4) 絵馬堂

絵馬堂は大絵馬の出現と密接に関わっていることから、その展示=(5)への導入と位置づけ、富士浅間神社額殿(上直竹下分)を写真と図面を使って紹介した。

(5) 飯能の絵馬

絵馬堂は大絵馬を展示するための建物で、それがギャラリーとして機能していたことが指摘されている。それは展示という行為の共通性において博物館とつながってくるので、特別展示室内を絵馬堂内部と見立て、木目調の壁面に「胎児と産湯図絵馬」(南川所畑観音堂・明治23年)、「刀鍛冶図絵馬」(赤沢星宮神社・安政3年)、「杣図絵馬」(久須美白鬚神社・明治35年)など20点を展示した。

(6) 現代社会と絵馬

エピソードとして、小絵馬を奉納する習慣が今でも形を変えて続いていることを現代の絵馬を展示することによって示した。

3 印刷物

ポスター(B2版4色刷)	300部
ちらし(A4版両面4色刷)	6,000部
展示図録(A4版4色刷60ページ)	1,000部

4 関連行事

◎体験学習会「絵馬を描こう！」

日時 平成9年10月19日(日)午後2時～
講師 渡辺林太郎氏(工房えむま)
会場 当館学習研修室
参加者 22人

◎絵馬製作実演会

日時 平成9年10月25日(土)午後1時～
実演者 小坂徳治氏(熊谷市久下)
会場 当館学習研修室
参加者 32人

◎講演会「埼玉の絵馬をめぐる」

日時 平成9年11月9日(日)午後2時～
講師 大久根茂氏(埼玉県立民俗文化センター主任学芸員)
会場 市民会館202会議室

参加者 31人

◎展示解説

日時 平成9年10月18日(土)・11月8日(土)・
16日(日)いずれも午後2時～

講師 尾崎泰弘(当館学芸員)

参加者 10月18日…12人、11月8日…18人、16日…20人

5 企画委員

大野邦弘氏・加藤義雄氏・坂口和子氏(以上郷土館協議会委員)、金子仙太郎氏(文化財保護審議委員)

6 評価

今回は、それぞれの絵馬が持つ情報を広く浅く、かつ理解しやすいよう到来館者に伝えることに主眼を置いて展示した。具体的には解説はできるだけ資料に近いところに、そして絵柄についてはその写真を用意し、それを使って絵柄を解説した。アンケートに記された意見、感想は以下のとおりである。(アンケート回答：60件)

- ・解説の言葉使いがやさしくて面白く、文字の大きさも適当で親切だった。(7人)
- ・実物がこのように近くで見れて嬉しい(3人)
- ・絵馬の由来や歴史がわかり大変勉強になった。(6人)
- ・クイズなどとても楽しむことができた。(2人)
- ・職員の展示に対する熱意がうかがわれる。
- ・解説パネルを読んでいて十分な理解ができなかった。
- ・絵馬と信仰の関係があいまいでその点がちょっと残念。
- ・照明が暗い。(4人) など



体験学習会「絵馬を描こう！」

高麗の里の独楽展 こま — 昔遊びのすすめ —

期 間	平成10年4月1日(水)～5月31日(日)		
開館日数	52日		
入館者数	7,241人(1日平均139.3人)		
展示点数	197点		
総費用	2,993,955円(入館者1人あたり413.5円)		
(内訳)	印刷費 1,512,000	報償費 299,220	
	写真関係費 74,508	賃 金 55,890	
	展示委託料 768,044	旅 費 20,860	
	資料保険代 10,570	事務通信費 44,370	
	資料借料 40,000	会場借上費 10,000	
	消耗品費 158,493		

1 趣 旨

コマ遊びは男の子たちの間で行われていた代表的な遊びであり、玩具としてのコマの多様性やその奥深さは世界に誇るものといえよう。木玩具の一種である江戸独楽は、見ても美しく、回しても楽しいことが特徴である。またその製作方法は、日本の木工ろくろ技術の粋を集めたもので、失われる可能性のある伝統工芸技術でもある。こうした江戸独楽等の魅力を通してコマ遊びや昔の遊びの楽しさを伝え、それが子どもたちの間で伝わっていくための一助となることを目的とする。現代の子どもたちが昔のようにゆったりと遊びながら育っていくような社会を願うものである。



コマ遊び体験コーナー (特別展示室)

2 展示の構成

(1) いろいろな独楽 (導入)

コマには回し方によって分けると、ひも巻きゴマ、モミゴマ、たたきゴマ、糸ひきゴマなどがあるが、そのほか地方では独特の形をしている大吉ゴマ、津軽地方のずぐり、そして今回メインとなる江戸独楽などがある。そうした様々なコマを一同に展示し、導入とした。

(2) 江戸独楽

① 回して楽しいコマ — 広井政昭さんの世界 —

糸ひきゴマのうち、コマを回すとその中に入っていた小さいコマがひとつずつ飛び出して回る「飛び出しゴマ」、回すとポーっと音が鳴る「鳴りゴマ」、コマを回すと観覧車が回ったり、石川五右衛門が釜ゆでにされて飛び出してくる、といった「からくりゴマ」など回して楽しいコマの数々を展示した。この場合、展示しているだけでは面白くないので、からくりゴマは露出展示とし、来館者のリクエストがある場合は実際に監視員が回して見せ、鳴りゴマや飛び出しゴマはその様子を会場内に設置したビデオで流した。

② 見て楽しいコマ — 広井道顕さんの世界 —

提灯の中に小さいお化けのコマが入っている「提灯おばけ」や、表情がユニークな「金魚とふぐ」のつりゴマ、てんとう虫・ホタルなどのきれいな「虫ゴマ」など思わず微笑んでしまうようなコマを展示

した。

(3) 江戸独楽の製作工程

コマになっている笠の部分の回すと、三味線を弾き口をバクバクさせて唄い始めるからくりゴマの「女浪曲師」。この複雑な作りのコマを製作していく過程を写真で紹介した。

(4) 外国の独楽

東京にある各国の大使館に、自国にコマ遊びがあるかどうか、あるとすればそのコマの形や入手方法などを答えてもらうアンケートを送付したところ、40ヶ国から回答が寄せられた。その結果をマレーシア、デンマーク、韓国などの実物の独楽とともに展示し、コマ遊びの広がり世界的にとらえた。

(5) コマ遊び体験コーナー

特別展示室内に追っかけゴマ・モミゴマ・糸ひきゴマ・鳴りゴマなどの、展示ホール内にはひも巻ゴマの体験スペースを作り、子どもたちに実際に回して楽しんでもらった。

3 印刷物

ポスター (B 2 版 4 色刷)	400部
ちらし (B 5 版 両面 4 色刷)	8,000部
展示図録 (B 5 版 一部 4 色刷 54 ページ)	1,000部

4 関連行事

◎講演会「コマの歴史」

日 時 平成10年 4 月 19 日 (日) 午後 2 時～
 講 師 八木田宜子氏 (日本独楽の会会長)
 会 場 当館学習研修室
 参加者 31人

◎江戸独楽製作実演会

日 時 平成10年 5 月 5 日 (火) 午前 11 時～
 実演者 広井政昭氏 (江戸独楽職人)
 会 場 当館展示ホール

◎コマ回し青空教室

日 時 平成10年 5 月 17 日 (日) 午前 10 時～
 模範演技 細谷茂氏・若林健一氏
 会 場 諏訪八幡神社境内
 参加者 60人

◎コマ回し・ベーゴマ大会

日 時 平成10年 5 月 17 日 (日) 午後 1 時～
 会 場 諏訪八幡神社境内
 参加者 コマ回し…65人 ベーゴマ…43人

5 企画委員

井上峰次氏・高山国雄氏 (以上郷土館協議会委員)、大河原義重氏・和泉由起夫氏・塗矢邦夫氏・吉田行男氏・吉野勲氏 (以上日本独楽の会高麗支部)

6 評価

コマ回しの体験コーナーでは親子や子ども同志で連れだって遊ぶ姿が目立った。またNHKで展示会のこと放送されたり、またコマ回し・ベーゴマ大会に、俳優でコマの収集家でもある加藤剛氏が来場するなどの波及効果があったため入館者数も多く、昔遊び、コマ遊びの楽しさを伝えることはできたのではないと思う。一方で体験できるところと比べると展示はインパクトが弱く、(3)や(4)のようあまり足が向いていないところがあり、解説もほとんど読まれていなかったようである。また、特別展示室では空間に余裕がないために、展示を見る人の通路と体験コーナーが重なってしまい、実際車椅子の方は展示を見るにも動きづらく体験もできない、といった空間配置上の問題点があった。

(展示監視員と職員による評価)



江戸独楽製作実演会



ベーゴマ大会

時の記憶 — 飯能の写真展 —

期 間	平成10年10月15日(木)～12月6日(日)			
開館日数	45日			
入館者数	5,890人(1日平均130.9人)			
展示点数	273点			
総費用	1,677,541円(入館者1人あたり284.8円)			
(内訳)	印刷費	919,800	報償費	90,000
	写真関係費	295,050	賃 金	22,140
	展示委託料	91,455	旅 費	14,800
	消耗品費	87,076	事務通信費	157,220

1 趣 旨

古い写真は多くの情報を含んだ歴史的な価値の高い資料である。そして文書や民具などの資料に比べて昔の姿を具体的に示してくれるが故に、歴史を身近に感じさせてくれる資料でもある。その写真を収集することにより、現代を規定してきた近代以降の歩みを押さえ、未来を考えるために必要な材料として保存すると同時に、このとりつきやすい材料から歴史とは何なのかを考えてみるきっかけとしたい。さらに、写真のもつ記録装置としての優れた点を再認識し、現代に生きる私たちが未来の飯能市民へ記録を残す主体者となりうることを知ってもらいたいと思う。



展示風景 (展示ホール)

2 展示の構成

(1) 写真からわかること

歴史資料としての写真からわかることを来館者自らが観察したり考えたりして、それを調べていく過程を体験してもらうコーナー。導入部分にあたる。

a「よく見るといろいろわかる」

「昭和の御大典記念」(篠原写真館・昭和3年)の台紙付写真を、ルーペを使って細かく観察し、撮影時期や撮影場所、内容を突き止めていくためのヒントを探す。

b「比べるとよくわかる」

大正13年、15年、昭和9年、14年の第一飯能尋常高等小学校の卒業写真を比較することによって、小学生の服装が変わっていく様子を実感してもらう。

c「街の移り変わり」

昔の写真と同じアングルで撮影した今の写真を比較し、時の流れを感じ取ってもらう。

(2) 飯能の写真館

明治19年に金子写真館が開業したことで始まった飯能の写真館の歴史は、その後篠原写真館、新井写真館、津森写真館と増えていく。その黎明期の写真館のマークの変遷やスタジオの様子などについて紹介した。

(3) 写真趣味のはじまり

第一飯能尋常高等小学校の教師であった岩田富之助が大正10年前後に撮影したガラス板写真を中心に展示した。ほとんどの写真に撮影場所及び期日が記

されており記録装置としての写真の有効性を訴えた。

(4)時の記憶 ー飯能の古写真ー

明治初期の大通りの様子を撮影した「武州高麗郡飯能町之景」(原版、宮内庁書陵部所蔵)から、昭和63年5月の「建設中の飯能大橋」まで、市民から提供された写真を中心に221点を年代順に展示し、歴史の流れが現代につながっていることを意識してもらう。また、11月中旬からは第1回目の定点撮影プロジェクトの成果を展示し、その結果平成10年までの写真が揃うことになった。

(5)写真資料の収集から整理まで

市民の皆さんの協力を得て収集された古写真が、どのような経過で整理され保存されているかを理解してもらうため、特別展示室に整理室を再現し、あたかもそこで写真の整理作業が行われているかのような雰囲気を作り出した。



展示風景 (特別展示室)

3 印刷物

ポスター(B 2版4色刷)	400部
ちらし(A 4版両面4色刷)	6,000部
展示図録(A 4版1色刷48ページ)	1,000部

4 関連行事

◎講演会「記録写真のすすめ」

日時 平成10年11月29日(日)午後2時～
講師 佐々木崑氏(自然科学写真協会会長)
会場 当館学習研修室
参加者 24人

◎定点撮影プロジェクト98 参加者…19人

〈打合会〉

日時 平成10年11月1日(日)午後1時～
会場 当館学習研修室

〈撮影〉

期間 平成10年11月2日(月)～8日(日)

内容 地点…77ヶ所 テーマ別…「働く人々」

〈記録会・反省会〉

日時 平成10年12月6日(日)午前10時～
会場 当館学習研修室



(1)b 比べるとよくわかる

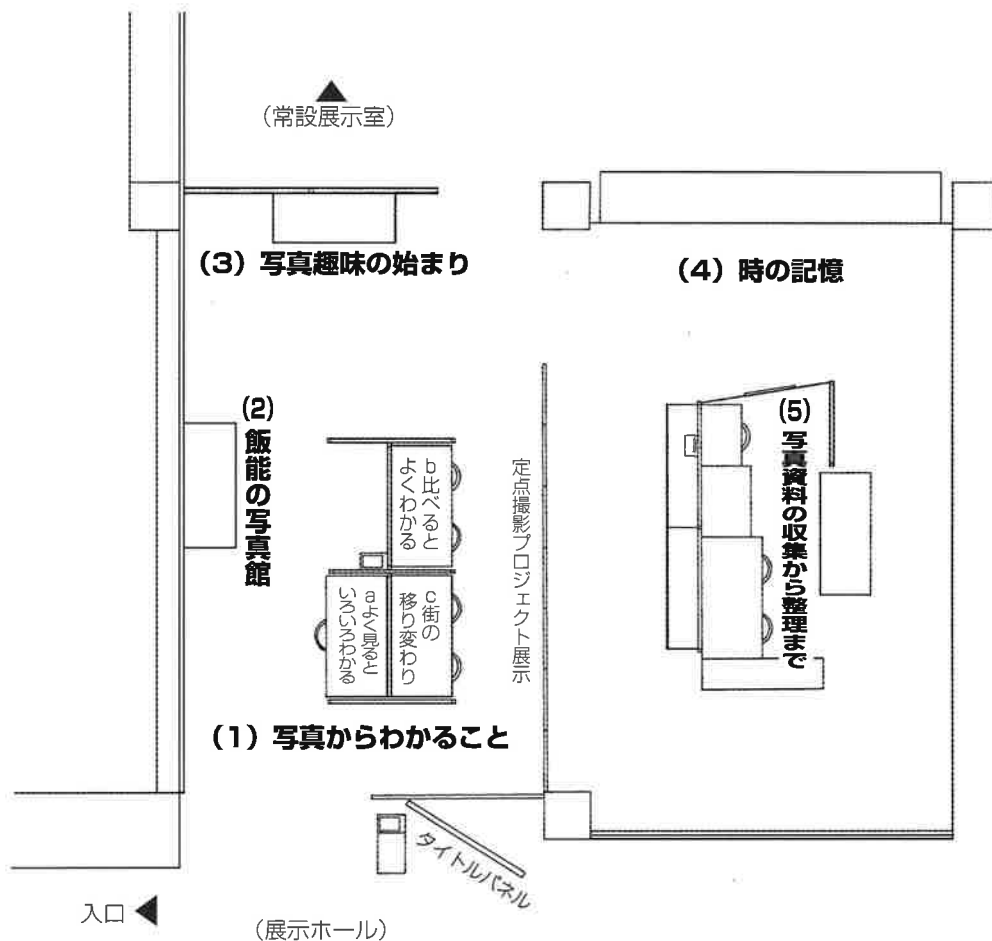
5 企画委員

井上峰次氏・坂口和子氏・滝鍊太郎氏(以上郷土館協議会委員)、金子仙太郎氏(文化財保護審議会委員)

6 評価

市民の皆さんから写真を提供していただいたので関心も高く、今回は来館者のうち市民の占める割合が多かった(71%)。また展示室で写真を指さしながらその頃の様子を語っている人の姿を多く見ることができ、滞留時間も全体的には長かったようである。こうした反応からは、写真は二次資料ではありながら歴史をイメージしてもらうには格好のメディアであることが証明され、歴史資料としての価値の高さを確認することができた。一方で展示の面からいえば、提供者1人につき最低1枚は展示するという原則と会場の狭さから、部分的に壁面の高いところまで展示したために写真が見づらくなったり、入館者

が(5)にはほとんど興味を示さないなどの問題点があった。また同時代の写真をまとめることにより、当時の社会の雰囲気が伝わってくるのではないかと考えていたが、同じ時代の中でも生活、産業といったように内容別に分けては展示しなかったため、却って伝えたいことがぼやけてしまった感がある。しかし、この特別展に関する調査の結果得られた写真館に関するデータは、台紙付写真を歴史資料とするのに有効である。また今後は写真資料の利用頻度が高まることが予想されるため、写真は収集すべき資料の1つの柱として位置付けていくべきであろう。また、市民の参加を得て始まった定点撮影プロジェクトは未来の市民へ記録を残していく息の長い事業である。何年か経って撮り貯めた写真を参加者全員で振り返ったとき、私たちはそこにどのようなものを見つけるであろうか。そして未来はどこまで見えるだろうか。(職員による評価)



「時の記憶」展会場平面図 (S = 1/50)

その他の展示

郷土館では、特別展のほかにも文化財の普及・啓発や収蔵資料の紹介などを目的としていろいろな展示を行ってきた。ここではそれを紹介する。

平成8年度

飯能市指定文化財 双木本家飯能焼コレクション展Ⅲ

期 間 平成8年7月11日(木)～7月30日(火)

開館日数 17日

入館者数 2,114人(1日平均124.4人)

1 趣 旨

飯能焼は「飯能」と冠のついた数少ない文化財である。にもかかわらず、開館以来、常設展示において展示スペースが少ないという意見が入館者から挙がっていた。また平成6年春に開催された「飯能焼」展以降、それについての問い合わせも増えてきており、こうした声に応えるため、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションを展示し、常設展示を補うと同時に飯能市郷土館を特徴づけるテーマ展示として位置づけるものである。今回はその3回目にあたる。

2 内 容

今回は梅樹文壺や松樹文徳利、秋草文小皿、梅花文下地差など毎回展示するもののほかに、新出のものとして双木本家飯能焼コレクション仮No.50～73までの14点、あわせて34点を展示した。

埋蔵文化財出土品展（生涯学習課共催） 掘りおこせ！古代からのメッセージⅣ

期 間 平成8年8月6日(火)～9月1日(日)

開館日数 24日

入館者数 2,675人(1日平均111.5人)

1 趣 旨

なぜ土器から時代や年代がわかるのかを解説する。発掘調査で「これは〇〇年前の土器です」と説明すると、「どうしてそんなことがわかるのですか」という質問をよく受ける。この質問への答え(土器の型式編年)を展示を通して説明する。それはまた、土器の観察の視点・遺跡での観察の視点を提示することにもなる。

2 内 容

ただ解説するだけの展示ではなく、入館者が土器に触れ、また破片を並べることで学べるような参加体験型の展示を行った。展示には市内出土の縄文土器約70点、及び土器の破片を使用した。

(1) 「土器から時代をよむ」

「どき(土器)・トキ(時)大作戦」と名付け、入口で受け取ったボードを持って、①「似た土器を探せ」、②「土器のもように注目せよ」、③「もようを分解せよ」、④「もようを並べてみよ」、⑤「順序を決めろ」の5つのコーナーを回るもので、5つの作業を通して各自持っているボードの土器カードを時代順に並べてみる。最後に解答と解説がある。

(2) 「土器からわかること」

土器からは時代だけではなく様々な情報を読みとることができることを示した。

3 印刷物

ポスター(B2版1色)

200部

4 関連事業

◎展示説明会

日 時 平成8年8月11日(日)・8月25日(日)
午後1時30分～

講 師 飯能市教育委員会生涯学習課埋蔵文化財
担当職員

参加者 各回20人



飯能市指定文化財 双木本家飯能焼コレクション展Ⅳ

期 間 平成8年12月7日(土)～2月2日(日)

開館日数 42日

入館者数 3,749人(1日平均89.3人)

1 趣 旨

飯能焼は「飯能」と冠のついた数少ない文化財であり、当館にとっても特徴となるようなテーマである。さらに平成6年春に開催された「飯能焼」展以降、そ

れについての問い合わせも増えてきているので、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションを展示し、常設展示を補うテーマ展示として位置づけるものである。今回はその4回目にあたる。

2 内 容

今回は梅樹文壺や松樹文徳利、秋草文小皿、梅花文下地差など毎回展示するもののほかに、新出のものとして双木本家飯能焼コレクション仮No.74～88までの16点、あわせて36点を展示した。

平成9年度

飯能市指定文化財 双木本家飯能焼コレクション展Ⅴ

期 間 平成9年7月12日(土)～8月31日(日)

開館日数 44日

入館者数 3,491人(1日平均79.3人)

1 趣 旨

飯能焼は「飯能」と冠のついた数少ない文化財であり、当館にとっても特徴となるようなテーマである。さらに平成6年春に開催された「飯能焼」展以降、それについての問い合わせも増えてきているので、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションを展示し、常設展示を補うテーマ展示として位置づけるものである。今回はその5回目にあたる。

2 内 容

今回は梅樹文壺や松樹文徳利、秋草文小皿、梅花文下地差など毎回展示するもののほかに、新出のものとして双木本家飯能焼コレクション仮No.89～116までの24点、あわせて44点展示した。

中であって、古来の製作方法をできるだけ残しながら、新しい日本刀の姿を常に追い求めている姿勢からは、日本の伝統技術を伝承するものとしての自負が看取できる。その小沢刀匠の新作名刀展における初の特別賞受賞作品を展示することにより、職人のわざを市民に感じとってもらうことを目的とする。

2 内 容

市内在住の刀匠、小沢寿久氏が平成9年度の新作名刀展において寒山賞を受賞した刀を展示ホールに展示した。



ミニ展 小沢寿久作品展

期 間 平成9年9月10日(水)～9月23日(火)

開館日数 12日

入館者数 936人(1日平均78人)

1 趣 旨

飯能に在住の小沢寿久刀匠は、強い沸かしと卓越した鍛錬の技術をもった数少ない現代刀匠であり、その良質な地鉄は高く評価されているところである。ともすれば外見のみを重視しがちな現代刀匠の

飯能市指定文化財 双木本家飯能焼コレクション展Ⅵ

期 間 平成10年1月18日(日)～3月1日(日)

開館日数 36日

入館者数 3,103人(1日平均86.2人)

1 趣 旨

飯能焼は「飯能」と冠のついた数少ない文化財であり、当館にとっても特徴となるようなテーマである。さらに平成6年春に開催された「飯能焼」展以降、それについての問い合わせも増えてきているので、市

指定文化財である双木本家飯能焼コレクションを展示し、常設展示を補うテーマ展示として位置づけるものである。今回はその6回目にあたる。

2 内 容

今回は梅樹文壺や松樹文徳利、秋草文小皿、梅花文下地差など毎回展示するもののほかに、新出のものとして双木本家飯能焼コレクション仮No.117～144までの25点、あわせて46点展示した。

平成 10 年 度

埋蔵文化財出土品展（生涯学習課共催） 掘りおこせ！古代からのメッセージV

期 間 平成10年8月4日(火)～9月6日(日)
開館日数 30日
入館者数 3,199人(1日平均106.6人)



1 趣 旨

今回の展示では、考古学の研究の過程を入館者が体験できるようにする。そのためには展示を見るだけでなく、実際に自分で体験して考えることが必要である。発掘調査の状況の再現や出土品を展示し、その展示品のどこに着目すればよいかを示して、そこから縄文時代の様子を考えてもらうようにした。入館者が研究者と同じように観察できるように、できるだけ実物資料に触れられるようにし、また主に小学生高学年から中学生が体験できる内容を用意した。

2 内 容

「発掘現場再現」、「はんのう考古学研究所」、「私が考えた縄文人」の三つのコーナーに分けて、それぞれ、実際に存在した住居跡・土壌などの分解模型、出土した土器や石器・キット等を用いて「使う」「作る」「選ぶ」「観察する」などの作業を通して、入館者に縄文時代の生活の様子を考えてもらった。

3 印刷物

ポスター(B2版2色) 200部

4 関連事業

なし

ミニ展 中学生社会科研究展

期 間 平成10年9月13日(日)～9月22日(火)
開館日数 7日
入館者数 828人(1日平均118.3人)



1 趣 旨

社会科教育において、近年新しい学力観に立つ教育の必要性、特に主体的に学習する能力の育成が叫ばれるようになった。具体的には、子どもたち自らが課題を発見し、その課題に迫り、学習成果を発表・表現する能力を身に付けさせることが求められている。通常の学校教育において、じっくりと課題に取り組むまとまった時間はなかなか取れないが、一方で夏期休業中は比較的余裕があるので、市内の中学校では自由研究を課すところが多くなった。ところが、現在理科や技術家庭科、美術科においては、作品が県展・全国展へ出品される機会が設けられているが、社会科においては同様の機会はない。しかし生徒の地域研究の意欲は強く、研究の質はかなり高い。このような作品を公共の場で広く市民に公開し、評価してもらえる場を設けることは、極めて教育的効果が高いと考えられる。さらに冒頭に述べた新しい学力観と合致する点も多いため、本企画を立案するものである。

2 内 容

飯能第一中学校の生徒51人、加治中学校の生徒30人、吾野中学校の生徒1人の研究成果を特別展示室と展示ホールを使って展示した。

平成8年度

夏休み子ども歴史教室「つくって遊ぼう！！昔の遊び体験」

- 日時** 平成8年8月7日(水)・8日(木)午前9時30分～11時30分
8月9日(金)午後1時30分～3時30分
- 対象** 小学生高学年～中学生
- 会場** 当館学習研修室
- 参加者数** のべ46人
- 指導者** 8月7日・8日 内田文雄氏・細田直秀氏・森福太郎氏(1丁目・2丁目健寿会)
8月9日 中山祐代氏・浅見よ志氏・猪野チヨ子氏・田中シズ氏・島崎とみ氏(1丁目・2丁目健寿会)



1 趣 旨

最近の遊びは人から与えられたものが多く、自ら工夫してつくって遊ぶ必要がなくなっている。そのため遊びに対しても想像力、応用力が欠如しているように感じられる。そこで昔の遊びを体験することにより、少しでもそういったものが楽しめる子どもになってもらえたらと思い企画した。

またものをつくる作業の中で、お年寄りとの自然な交流を持つこと、自分でつくった道具で遊ぶことのおもしろさを知ること、子ども達のこれからの生活に今までと違う変化をもたらすのではないかと考えた。さらになぜなにポストの投書の中にも昔の遊びをやりたいという意見が多かったため、リクエストに応えるという一面もある。

2 内 容

3日間通じて、遊ぶ道具をつくり、実際にお年寄りと一緒に遊ぶ。中には、時間内で上手に出来ない子どももいると思うので、出来ない子どもにもつまらない思いをさせないように配慮する。

なお、例年3日間を通して参加することが原則となっているが、今回は1日ごとに申込をしてもらった。

8月7日 「水鉄砲をつくろう」(18人)

8月8日 「竹トンボをつくろう」(9人)

8月9日 「お手玉をつくろう」(19人)

金属文化講演会(名栗川金属文化の会共催)

「三田一族を語る」

- 日時** 平成8年10月27日(日)午後1時30分～
- 対象** 一般
- 会場** 当館学習研修室
- 参加者数** 50人
- 講師** 齋藤慎一氏(青梅市文化財保護審議委員)



夏休み子ども歴史教室

民俗行事のつどい(中央公民館共催)

- 日時** 平成8年8月4日(日)・9月8日(日)・
平成9年2月2日(日)・3月2日(日)
いずれも午後1時30分～





- 対 象** 一般
会 場 8月4日・2月2日…中央公民館(第一学習室・調理室)
9月8日・3月2日…当館学習研修室
参加者数 のべ48人
講 師 8月4日 内沼須美氏・西野房子氏 9月8日 内沼須美氏
2月2日 飯能市連合婦人会のみなさん 3月2日 大野純子氏・高瀬恵子氏(郷土館友の会)

1 趣 旨

矢風、前ヶ貫、原市場などにおける開発や、加治地区およびその周辺における区画整理の進展は、新住民の増加による活気をもたらした一方で、急速に村落景観を変化させている。またそうした中で歴史的景観と目に見えぬものだけではなく、日本の豊かな四季の変化とともに人々の人生を彩った年中行事もあるものは簡略化され、あるものは消滅しつつある。しかしこれらの年中行事は、現代のような物の豊かさとは無縁ながら、家族、親戚、あるいは近所の人達が集う心温まるひとときであったにちがいない。今回の体験学習会は、年中行事の中の「食」を中心にその昔の様子を復元してその行事の意味を知ってもらうと同時に、それを体験することにより豊かな暮らしとは何なのかを考えるきっかけにする。

2 内 容

8月4日 「七夕飾りとゆでまんじゅう作り」

七夕飾りを参加者で作り中央公民館の玄関に立てたあと、ゆでまんじゅうを作った。そしてゆでまんじゅうを食べながら昔の七夕の様子や我が家の七夕について語ってもらう。

9月8日 「十五夜と団子作り」

天覧山裏の谷津田に十五夜で飾るすすき、花などを取りに行き、帰ってから団子を作る。団子を食べながら昔の十五夜の様子や我が家の十五夜について語ってもらう。

2月2日 「節分 ～みんなで鬼退治～」

節分の意味について簡単に説明したのち、七輪で炭を使って火を起こして鰯を焼き、ヤッカガシを作る。また、婦人会のみなさんにご協力いただき、豆を炒り、けんちん汁も作り、ヤッカガシは中央公民館玄関に立てた。そして最後にけんちん汁や鰯を食べながら昔の節分の様子について語ってもらう。

3月2日 「ひな祭り ～ひな人形作り～」

参加者が折り紙を使ってひな人形を作り、その作業を通して人々の人形に託した思いを理解してもらう。その後ひなあられを食べながら、昔のひなまつりの様子について話を聞き、自分の家のひな祭りの様子について語ってもらう。

平成9年度

夏休み子ども歴史教室「縄文人になったつもりで火起こしにチャレンジ！」

- 日 時** 平成8年8月6日(水)・7日(木)・8日(金)午前9時30分～11時30分
対 象 小学生4年生～6年生
会 場 当館学習研修室、搬入口外、常設展示室
参加者数 19人
指 導 者 尾崎泰弘(当館学芸員)・加藤久美恵(当館職員)・田嶋佐奈恵
大矢久代・若島直美(博物館実習生)



1 趣 旨

「火」の使用は人間の生活に快適さをもたらし、それにより人間は他の動物と違った歴史を歩みはじめることになった。現代でも火は生活に不可欠のものであり、人類の生活史はいかに簡単に火を起こし、維持していくかの工夫にかかっていたといってもいいくらいである。その火の役割を再認識し、さらに昔の火おこし

を体験することにより、昔の生活技術の知恵を体感してもらう。その大変さに触れたとき、いかに縄文時代や弥生時代の文化や生活が高度なものであったか素直に認め、歴史に対する認識も変わってくると思われる。なお今回は、子ども達が自分でいろいろと工夫をしながら取り組むようにし、いかに早く火を起すかではなく、いかに確実に火種を得るかについての工夫の過程を重視したいと思う。また材料もできるだけ天然に近いものを用い、原始時代の生活に少しでも近づいた疑似体験にする。

2 内 容

8月7日 (導入・道具の製作)

常設展示室「最初に住みついた人々」のコーナーにおいて生活の上で火が果たす役割について考えてから、1階搬入口前の広場に移動し、マイギリの発火を実演する。その後、マイギリ、火口、火切り臼の製作にとりかかる。なお、製作は2～3人のグループ単位とし、教えあったり、助けあったりしながらできるようにする。

8月8日 (道具の製作)

前日に続き道具の製作を行う。この日の後半から火起こしへのチャレンジを開始できると考えていたが、そこまで至らず、道具作りで終わる。

8月9日 (火起こしにチャレンジ)

この日も前半は道具作りを行い、後半から火起こしを始める。19人の参加者のうち10人は煙を出すところまで行ったが、発火までは至らなかった。当初はそれぞれが会得した発火のための工夫を「攻略本」にまとめる予定であったが、そこまでできなかつたので、館の方で用意した発火のヒントを参加者に配布した。



金属文化講演会 (名栗川金属文化の会共催)

「ウォルター・ウエストンの見た明治の日本アルプスと日本」

日 時 平成9年5月18日(日)午後1時30分～

対 象 一般

会 場 当館学習研修室

参加者数 51人

講 師 水野勉氏(翻訳家)



平成 10 年度

やさしい古文書講座

日 時 平成10年4月18日(土)・5月10日(日)・

17日(日)・24日(日)・31日(日)

いずれも午後2時～3時30分

対 象 一般

会 場 当館学習研修室

参加者数 29人

講 師 浅見徳男氏(飯能市教育委員会教育次長)・新井秀穂氏(古文書同好会代表)



1 趣 旨

これまで平成2(1990)年、平成6(1994)年の2回、古文書講座を開催し、その参加者からなる古文書同好会が現在でも活動を続けている。しかし参加者も徐々に減少してきている一方で、市民から「古文書を読めるようになりたい」という要望が聞かれるようになってきた。

また、当館所蔵の古文書活用のためには解読、活字化が必要であるが、現在の職員体制ではなかなか難し

い状況にある。そこで、市民の学習需要に応え、最終的には古文書の整理、活用ができる「市民学芸員」(ボランティア)の養成のため、この講座を開催する。

2 内 容

- 4月18日 (導入) 古文書という言葉の意味、種類、調査する目的について解説する。
- 5月10日 御成筒(年貢)の割り付けから、当時の村方の仕組みや村人の生活を知ってもらう。
- 5月17日 石灰荷物預け出入で、飯能村の太郎右衛門が新河岸の弥平次を訴えた古文書を使い、当時の裁判制度について解説する。
- 5月24日 領主である黒田氏は財政逼迫のため、領地の村々から借入金の調達を図り、台所賄いをしようとした。そのときの村方文書を用い、黒田氏の支配の様子を理解してもらう。
- 5月31日 武州一揆の関係史料をもとに、幕末における大きな事件の様子を読みとってもらう。

金属文化講演会 (名栗川金属文化の会共催)

「三田氏の支配形態 -板碑と飯能と杣保-」

- 日 時 平成10年6月21日(日)午後1時30分~
- 対 象 一般
- 会 場 当館学習研修室
- 参加者数 46人
- 講 師 齋藤慎一氏(青梅市文化財保護審議委員)



夏休み親子歴史教室

夏休み親子歴史教室「のぞいてみたい。農家の生活」

- 日 時 平成10年8月1日(土)・2日(日)・9日(日)午前9時30分~11時30分
- 対 象 小学生3年生以上の児童とその親
- 会 場 当館学習研修室
- 参加者数 のべ58人(親子9組・20人)
- 指 導 者 8月1日・9日 島田欽一氏 8月2日 内沼須美氏



1 趣 旨

飯能の農家の主な農産物に麦があり、農家の食事としてうどんは欠かせないものであった。借り入れ後の麦を粉にして、その粉からうどんを作り、藁は屋根材にして使っていた。当時の農家の生活の中には、物を大切に作る心、物を活用する工夫がたくさん見られたが、それを体験することにより、日本人が本来持っていた生活の知恵を感じ取ってもらう。さらに、この体験により、現在のごみ問題、環境問題を考えるきっかけになればよいと思う。

2 内 容

8月1日 「小麦粉をつくろう」

麦の穂から粉にするまでを体験することにより、その大変さを知る。そして翌日のうどん作りのときにそこへ至るまでの労力を想像しやすくする予定だったが、体験する時間が少なかった。

8月2日 「うどんをつくろう」

1日目に作った小麦粉を使った食べ物の代表としてうどんを取り上げ、手作りの楽しさや粉にして食べられるようにするまでどれだけ時間がかかったのかを実感してもらった。親子で楽しそうに作っている姿がこちらこちらで見られ、失敗なく全員が作り終えた。

8月9日 「ぞうりをつくろう」

現在ならば、捨ててしまおうと考えられる藁を使い、生活に密着した道具を作っていたことを知ってもらう。その例としてわらぞうりを作ったが、時間がかかり片方しかできなかった。

資料・施設の利用

(1) 収蔵資料の利用(閲覧・貸し出し)

郷土館には、昔の生活用具や職人の道具などの民俗資料、古文書・典籍などの文字資料、写真やビデオなどの映像資料といった郷土にかかわるさまざまな資料を収蔵している。これらの資料は特別展や講座、学習会など館の主催する事業に使用するだけでなく、資料を傷めない範囲で市民をはじめ、郷土や歴史を研究している人たちに利用していただいている。

平成8年度

	資料名	利用者名	目的	期間
1	ビデオ「飯能の自然と風土」	個人	研究	4/9～5/15
2	『秩父記』阿津写真プリント1点	個人	万葉歌碑建立記念誌に掲載	4/13～5/29
3	ビデオ「ゴミの減量化とリサイクル」	飯能第一小学校	社会科の資料	5/28～6/1
4	常楽院軍荼利明王立像関係写真フィルム	市生涯学習課	補助事業申請書作成	5/29～6/10
5	『阿寺諏訪神社の祭りと伝承』	//	鷲宮町の神楽についての調査回答	6/25～6/28
6	『坂戸市史 近世資料編』	個人	研究	7/12
7	『八高線建設要覧』など2点	日高市教育委員会	「日高の鉄道」展に展示	7/18～9/30
8	『飯能の伝説』	市道路建設課	資料調査	8/22
9	「筆子門人記」など2点	個人	卒論のための調査	9/23
10	ジョレン・縄モッコなど4点	加治小学校	小学4年生の社会科授業	10/15～10/22
11	縄モッコ・鍬など5点	原市場小学校	社会科の授業	10/27～11/30
12	『尋常小学国史 上巻』など3点	個人	資料研究	11/4
13	ビデオ「日本刀のできるまで」	個人	研究	11/19～11/22
14	「宮沢湖の工事」写真プリントなど2点	飯能ケーブルテレビ	番組製作のため	12/6
15	「須田家日記」3点	個人	調査研究	1/12～1/26
16	火鉢・釜・あんかなど10点	原市場小学校	小学3年生社会科の授業	1/15～1/17
17	みの・火箸・キセルなど16点	加治東小学校	社会科の学習	1/21～2/6
18	練炭コンロ・火のしなど5点	飯能第一小学校	社会科の学習	1/23～1/30
19	「須田家日記」2点	個人	調査研究	1/26～2/15
20	『高等小学修身書 巻一』など2点	個人	随筆の参考資料	2/6～2/18
21	自在鉤・鉄なべ・箱膳など14点	南高麗小学校	小学校3年生社会科の資料	2/6～2/13
22	「須田家日記」2点	個人	調査研究	2/15～3/30
23	歯磨き粉・ランプなど8点	飯能第二小学校	社会科の授業	2/27～3/7

	資料名	利用者名	目的	期間
1	ビデオ「名栗の林業」など3点	飯能第一小学校	小学校社会科の授業に活用	4/2~4/17
2	「筏流し」写真プリント	飯能ケーブルテレビ	ビデオ『森林をつくる』製作	4/3~4/9
3	小瀬戸野口家銅板経など2点	市生涯学習課	近世宝篋印塔・銅板経報告書作成	4/17~4/18
4	「飯能時報」綴	個人	研究	5/7
5	小瀬戸野口家銅板経など20点	埼玉県立博物館	企画展「最新出土品展」に展示	7/11~9/12
6	迅速測図(刊本)3点	個人	調査	7/16
7	埼玉県立文書館所蔵文書目録3点	//	レポート作成	7/17
8	『川越市史 第3巻』など4点	//	研究	8/1
9	てんびん棒・ざるめかい	市立子ども図書館	飯能の昔話を描く	8/6
10	『人と緑の文化誌』	飯能第一中学校	社会科教育の教材研究	8/14~8/21
11	『所沢市史 上』など4点	//	//	8/14~8/21
12	『早瀬龍江画集』写真原稿フィルム11点	第一生命保険相互会社	「早瀬龍江」展展示図録の製作	9/16~11/30
13	「筏流し」写真プリント	東吾野小学校	飯能市社会科副読本編集	9/15~12/12
14	絵画「白象と阿羅漢(白木正一)など13点	美術文化協会	「白木正一遺作展と静岡の仲間たち」展に展示	10/18~12/13
15	絵画「アルタミラ幻想」一対(白木正一)	//	//	11/15~12/13
16	縄モッコ・土がためなど6点	加治東小学校	社会科の授業に活用	10/15~10/31
17	ビデオ「我野神社獅子舞」など4点	加治小学校	道徳の授業	10/23~11/5
18	絵画「悦楽(早瀬龍江)など7点	第一生命保険相互会社	企画展「早瀬龍江」に展示	11/5~12/28
19	『重要文化財12 建造物I』	市生涯学習課	文化財講座資料	11/20~11/30
20	縄モッコ・ツルハシなど6点	吾野小学校	社会科の学習に活用	11/27~12/13
21	生徒用学習いす	飯能華道連盟	飯能華道連盟展に展示	11/28~12/2
22	『日本常民生活絵引』など27点	飯能第一中学校	社会科授業の参考文献	12/4~1/10
23	火のし	双柳小学校	小学3年社会科の授業	12/11~12/17
24	火のし	//	//	1/13~1/29
25	『川越市史 第3巻』	個人	調査	1/20
26	火のし・七輪4点	飯能第一小学校	社会科の授業	1/21~1/23
27	常楽院軍荼利明王立像写真フィルム2点	(株)ワンダーランド	見聞塾「仏像の本」に掲載	1/22~5/27
28	飯能焼写真フィルム5点	(株)アドイング	埼玉県広報誌「ぶりむら」に掲載	1/28~4/2
29	飯能焼写真フィルム8点	川越市立博物館	企画展図録及び広報紙掲載	2/7~5/22
30	「消防団会議録」など8点	個人	『飯能消防団50周年史』執筆	2/17
31	「消防団会議録」2点	個人	//	2/17~3/27
32	加能里遺跡11次調査出土土器4点	(仮)考古学サークル	考古学の学習	2/24~

	資料名	利用者名	目的	期間
33	「東吾野村消防団設置規則」ほか12点	個人	飯能市消防団50周年記念誌の発行	2/24
34	たらい・あんか・釜など10点	双柳小学校	社会科の授業	2/26~3/5
35	「矢置村、八郎右衛門分、前ヶ貫村絵図」	古文書同好会	古文書解読及びその背景の調査	2/28
36	飯能焼「松樹文徳利」など65点	川越市立博物館	企画展「近世陶磁への招待」開催	3/25~5/22
37	「文化財時報」綴など2点	個人	調査	3/27

平成10年度

	資料名	利用者名	目的	期間
1	飯能焼「梅樹文壺」など6点	茶道松濤会	飯能の文化財の紹介	5/10
2	「中藤小学校」写真プリントなど3点	市企画調整課	原市場地区まちづくり計画書掲載	4/17~6/11
3	「筏」写真プリントなど2点	飯能林業事務所	パンフレット『西川林業』作成	5/15~7/30
4	野口家宝篋印塔塔内納入品（銅板経など）2点	発掘された日本列島'98 実行委員会	発掘された日本列島'98（巡回展）に展示	6/5~2/5
5	高麗の里の独楽展記録用写真フィルムなど2点	日本独楽の会高麗支部	高麗の里の独楽展反省会に使用	5/30~6/2
6	『入間川の水運』	生活クラブ生協水の会	湧水調査	6/21~7/11
7	ビデオ「江戸独楽のできるまで」など2点	埼玉県立南教育センター	授業の教材研究	7/1
8	小沢寿久刀匠刀剣製作工程の写真フィルム40点	福生市郷土資料室	特別展「郷土の日本刀」開催	7/29~8/26
9	『縄文人の生活』など3点	市生涯学習課	出土品展の参考	7/31~8/4
10	鍬・シャベルなど7点	//	出土品展で展示	8/3~9/8
11	『飯能市史 民俗』など4点	飯能西中学校	社会科資料作成	8/11~9/1
12	「須田家日記」など2点	中央公民館	郷土史講座の資料	8/22
13	「入間郡地誌史談」など4点	加治中学校	教材研究	8/22
14	「南極の石」解説	個人	研究	9/2
15	常楽院軍荼利明王立像写真フィルム	(株)日本アート・センター	『仏像の見方』（池田書店）に掲載	9/4~11/12
16	スライド「農村の結婚改善」1組	加治公民館	加治今昔写真展	9/12~10/1
17	「武蔵野史談」など2点	加治中学校	教材研究	9/18
18	ジョレン・モッコなど5点	加治小学校	社会科の授業用の資料	10/29~11/7
19	『飯能なんでも大全集』	美杉台小学校	美術教育（100年後の飯能を描く）	10/31~11/7
20	「御用留」など16点	個人	調査研究	11/3
21	「須田家日記」など2点	加治東公民館	「地域学講座」の資料	11/7
22	織物柄見本	個人	調査研究	11/8
23	ジョレン・モッコなど7点	原市場小学校	社会科の授業での資料	11/10~11/17
24	『近世民事訴訟制度の研究』	個人	古文書の研究	11/11~11/21

	資料名	利用者名	目的	期間
25	とび・鉈など9点	飯能第一小学校	3年生社会科授業の資料	11/13~11/20
26	「八高線建設要覧」など2点	埼玉県立博物館	「埼玉の鉄道」展資料調査	12/9
27	「八高線建設要覧」	東飯能駅記念誌刊行委員会	記念誌発行	12/22
28	「絹屋基蔵」の引札など121点	八潮市立資料館	企画展資料調査	12/23
29	小沢寿久刀匠刀剣製作工程の写真フィルム	市企画調整課	観光ガイドに掲載	1/6~3/26
30	縄モッコ・ジョレンなど12点	加治東小学校	社会科学習の資料	1/7~1/22
31	『府中郷土の森施設概要』	市生涯学習課	文化財施設研修準備	1/8~3/17
32	『東吾野写真誌』など3点	原市場中学校	授業のための資料収集	1/13~1/27
33	「須田家日記」	個人	調査	1/14
34	『飯能市史 年表』など3点	個人	東飯能駅駅舎記念誌作成	1/17~1/24
35	八高南線開通記念絵葉書の写真フィルムなど2点	埼玉県立博物館	「埼玉の鉄道」展の図録製作	1/19~5/13
36	纏・とびなど3点	加治中学校	社会科の研究授業	1/20
37	引札(日野屋卯助)など4点	八潮市立資料館	「摺師豊田信三のわざ」展に展示	1/30~3/18
38	常設展示地形模型検討資料ファイル	市生涯学習課	八王子遺跡発掘報告書作成	1/29~4/14
39	アイロン、火のしなど6点	原市場小学校	社会科の授業の教材	2/6~2/13
40	「飯能メガホン」掲載写真プリントなど2点	個人	東飯能駅記念誌刊行のため	2/21~3/30
41	「埋火葬認許証文交付簿」など2点	個人	//	2/21
42	「飯能の刀匠」展展示図録	個人	学習発表	2/24~4/9
43	マイギリ(発火具)など3点	原市場小学校	野外活動クラブで利用	3/2~3/6
44	釜、竈など3点	加治東小学校	社会科の授業用教材	2/2~3/18
45	飯能焼原窯跡表採資料15点	市生涯学習課	飯能焼原窯跡発掘調査報告書作成	3/2~5/27
46	『青梅西川林業技術史』など3点	個人	調査	3/9
47	飯能焼牡丹文土瓶写真フィルムなど3点	入間市博物館	「北限への旅路」展図録に掲載	3/9~5/15
48	「八高線開通記念絵葉書」など2点	埼玉県立博物館	「さいたまの鉄道」展に展示	3/10~5/13
49	定点撮影プロジェクト98フィルム1葉	個人	協力者への御礼にプリントを贈呈	3/10~4/18
50	郷土館外観写真プリントなど2点	飯能郷土史研究会	「郷土はんのう」に掲載	3/11~3/31
51	「坂石町分」写真プリントなど4点	市企画調整課	吾野地区まちづくり計画書に掲載	3/12~12/21
52	「谷口集落の性格についての一考察」	飯能第一中学校	資料収集	3/18
53	『埼玉県史 資料編12』など2点	吾野中学校	教育センター研究員の資料作成	3/18
54	東飯能駅レール柱写真フィルム2点	個人	東飯能駅記念誌の編集	3/24~4/10
55	「筏川下げにつき訴状」など9点	個人	郷土史講演会の資料	3/14
56	『日本地名大辞典』2点	個人	東飯能駅記念誌作成の参考資料	3/14~3/16
57	加治村全図、川寺村絵図など4点	加治中学校	教材研究	3/31
58	「絵図からの伝言」展解説パネルなど20点	//	社会科の教材	3/31~6/19

(2)施設の利用

①特別展示室

飯能市郷土館条例施行規則では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

平成10年度 うちおり展

期 間	平成10年9月12日(土)～9月22日(火)
主 催	飯能の織物研究会
期 間	8日間
入館者数	921人(1日平均115.1人)

②学習研修室

学習研修室は、当館の主催事業のほか、飯能の歴史や地域文化の振興に関わる活動を行っている団体、サークルなどを中心に利用されている。

平成8年度～平成10年度の月別利用件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	見学	行事
平成8年度	10	7	5	5	2	4	4	5	5	5	5	5	62	16	29
平成9年度	5	5	5	3	4	3	3	2	4	5	6	4	49	14	11
平成10年度	4	5	8	5	3	9	10	7	7	8	10	8	84	12	34
合 計	19	17	18	13	9	16	17	14	16	18	21	17	195	42	74

◎主な活動団体

飯能市郷土館友の会・飯能郷土史研究会・石仏談話会・古文書同好会・多間の会・飯能を学ぶ会・万葉歌碑の会・「飯能の文化財」ビデオ編集委員会・名栗川金属文化の会・教育センター社会科学研究員会議・古文書勉強会など

◎平成10年度末現在で活動している学習サークル

飯能市郷土館友の会

設 立 平成2(1990)年4月
 目 的 1 郷土館活動を後援し、同時に会員相互の連携と親睦を深める。
 2 展示・収蔵資料を通して知識を培い、飯能市の歴史にもとづく文化活動を広めていく。
 代表者 大野邦弘
 会員数 380人
 活 動 まゆ玉作りなどの例会のほか、秋にはバスツアー(博物館めぐり)を開催している。

飯能郷土史研究会

設 立 昭和48(1973)年7月
 目 的 郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。
 代表者 井上峰次
 会員数 86人
 活 動 年3回の例会のほか、秋にはバスツアーを開催している。

古文書同好会

設 立 平成3(1991)年4月
 目 的 飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及びその活字化。
 代表者 新井秀穂
 会員数 10人
 活 動 毎月第1・3土曜日

名栗川金属文化の会

設 立 平成2(1990)年
 目 的 飯能・名栗の製鉄文化を中心に研究し、古代から近世にかけての製鉄文化の流れを明らかにする。
 代表者 山口晋平
 会員数 21人 会友2人
 活 動 隔月に例会を行うほかに見学会も随時開催。年5回会報発行。

多間の会(仏教美術学習会)

設 立 平成6(1994)年11月
 目 的 仏像・仏画・仏教建築の学習
 代表者 大野豊治
 会員数 17人
 活 動 偶数月の第3土曜日に例会(うち見学会3回)

石仏談話会

設 立 平成7(1995)年1月
 目 的 石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ。
 代表者 双木貞夫
 会員数 32人
 活 動 第1土曜日に活動(奇数月が学習会、偶数月は見学会)

古文書勉強会

設 立 平成10(1998)年6月
 目 的 飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及びその活字化。
 代表者 新井秀穂・梅原安子
 会員数 11人
 活 動 毎月第1・3土曜日

学校の利用

『小学校学習指導要領』では、社会科において実物を直接見たり触れたりすることによって具体的、実感的に理解させるために、博物館や郷土資料館の活用が謳われている。小学3年生が生活の移り変わりを学習するために来館するのはその例である。見学時期としては、この単元を授業で行う時期がだいたい1月下旬から2月上旬にかけてなので、ほとんどの学校がこの時期に集中して見学する。その一方で山間部の学校の中には足の便がないため来館できない学校もある。

市内の小学校3年生の来館状況（平成2年度～10年度）

小学校名	年度	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	他学年	合計
吾野小学校					○		○				2	4	6
西川小学校				○						○	2	8	10
東吾野小学校									○		1	5	6
南高麗小学校										○	1	3	4
原市場小学校	○	○	○	○			○	○	○	○	8	0	8
加治小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	2	11
加治東小学校			○		○					○	3	9	12
美杉台小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	2	11
第一小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	10	19
第二小学校			○					○		○	3	0	3
富士見小学校	○		○	○	○	○	○	○	○	○	8	6	14
双柳小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	3	12
精明小学校				○	○	○	○	○	○	○	6	1	7
合計		6	5	9	8	7	8	8	8	11	70	53	123

他学年=3年生以外の学年の見学件数

〈見学の対応〉

学校より見学の申込があると、一度事前に先生方にご来館いただき、時間や学校側の希望などを確認したうえで、対応内容について打ち合わせる。当館では以下のようなプログラムを用意しているが、そのうちのいくつかを組み合わせて実施する学校が多い。見学時間は少ない学校で1時間程度、多い学校でも2時間くらいである。

- a. 民具クイズ
 - …昔の生活道具十数点を観察したりさわったりして、その用途を考え、カードを使って現在の電化製品と同じ働きをするものを組み合わせる。
- b. 常設展示室見学
- c. 民具を使っでの体験学習
 - …火のし、石臼、行灯などを実際に使用してみる。
- d. 収蔵庫見学
- e. 学校側が希望する民具を並べ説明を加える。
- f. 質問に答えるのみ



このほか、小学校では1年生や6年生が見学に来る場合もあるが、3年生のように事前に打ち合わせを行って対応することはほとんどないのが現状である。また、一般の団体についても解説を行う場合もあるが、その数は1年で10件程度である。

レファレンスの対応

郷土館には、展示を見学したり講座に出席したりするだけでなく、自分で学習を進めたり授業に使うために、様々な地域の情報、資料などを求めて来館される方がいる。そのような来館者の対応も当館にとって重要な仕事のひとつである。方法としては、窓口で直接、あるいは電話でお話を伺いお答えするものと、「なぜなにポスト」を使っての問い合わせに対し返事を出すといった二つの方法がある。

a. 窓口(電話)での対応

来館者が窓口や電話で問い合わせる内容は、観光地への道筋や文化財の位置などその場で応えられる軽微なものから、暫く時間をいただき調査しないと答えられないものまで様々である。これら全体の件数については把握していないが、調査を行い資料、情報などを提供した場合には、対応内容や提供した資料などを記録している。ひとつには、それが特別展のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じ様な問い合わせがあった場合にそれに対応する時間、作業の無駄を省くためである。ちなみにこの対応記録は平成10年度から取り始めたが、この年は21件あった。問い合わせた方・内容の内訳は下記のとおりである。

〈問い合わせた方〉

	件数	内 訳
一 般	8	市外5・市内2・不明1
教 師	6	小学校4・中学校2
学 生	2	中学生2
その他	2	公共機関1・市職員1
不 明	3	
合 計	21	

〈内容〉

[飯能の歴史に関するもの]

- ・飯能の地名の由来
- ・飯能焼（2件）
- ・飯能戦争
- ・飯能祭りの由来
- ・明治26年に坂石村芳延で起きた火事について

[学習教材の相談]

- ・小学3年生の国語「暮らしと絵文字」の単元に使えるような看板はないか。
- ・加治地区の絵図が見たい。
- ・林業の写真はないか。

[その他]

- ・八坂神社の場所
- ・県内でいちばん面積の大きい町は？
- ・加治丘陵で見られるきのこの種類、など

b. なぜなにポスト

これは、展示を見て疑問に思ったこと、館に対する意見、その他歴史全般に関する質問などを記入してもらうもので、郷土館では館と来館者をつなぐパイプの役割を果たすものとして位置づけている。質問に関してはできるだけ回答を郵送することになっている。

	利用者	質問数	意見・感想	回答数
平成8年度	135	90	48	82
平成9年度	84	44	31	28
平成10年度	71	38	27	24
合 計	290	172	106	134

〈感想〉

- ・とても心が落ち着く。
- ・大変きれいで整理されており、図書・新聞も充実。
- ・昔の人はいろんな技術があつてすごい。
- ・昔の人の知恵などは現代人に必要なもの。
- ・昔のように貧しくても豊かであることなど大事なことを思い出させてくれる、など。

〈意見〉

- ・水(お茶)の飲める場所が欲しい。
- ・子どもが遊べる場所、子どもでも楽しめる展示が必要。
- ・ビデオの種類を増やして欲しい。
- ・こわいのもう少し明るくしてほしい。
- ・解説シートがもっと欲しい。
- ・たくさんイベントをやって下さい、など。

収 集

飯能市郷土館は「もの」資料やそれに関する情報を通して市民が歴史や郷土のことについて学習するための社会教育機関である。そのためには、「もの」資料を収集し保存することが不可欠であるが、その多くは市民からの寄贈によって成り立っている。また、寄贈いただいた資料は市民の財産として永遠に保存すべく、台帳に登録し、整理し、収蔵庫にて管理されていくことになる。

寄 贈 資 料

(敬称略)

平成8年度

	資 料 名	員数	寄 贈 者 名
1	明治・大正期中藤川製材工場関係簿冊	5	小 澤 茂
2	足踏脱穀機	1	田 嶋 純 一
3	「上水道竣工記念えはがき」など	4	桑 田 晃 治
4	碗、猪口、急須など	32	片 原 庫 之
5	『白木正一画集』、『早瀬龍江画集』	138	木 崎 芳 之
6	台紙付写真、写真帖、絵葉書など	124	双 木 貞 夫
7	『日露戦役写真帖』	3	田 中 勝 久
8	『飯能銀行創業二十一年史』など	2	〃
9	万葉歌碑関係色紙	1	大 原 富 枝
10	万葉歌碑関係絵画、軸装など	5	万 葉 歌 碑 の 会
11	念珠	1	下 赤 工 自 治 会
12	明治13年道中日記帳	1	山 川 万 治
13	火縄式鉄砲	1	飯能第二小学校
14	火のし、方位磁石、ふるいなど	20	土 屋 ヒ サ
15	東京日日新聞(関東大震災関係)など	3	岸 道 生
16	経台、百回り、蠅取り器など	6	土 屋 ヒ サ
17	『漢書評林』(第一～八十七巻)	50	赤 田 健 一
18	蓄音機、レコードなど	12	亀 井 長 五 郎
19	大東京全図(北部方面)、埼玉縣全図など	97	小 川 久 雄
20	『修身教典尋常小学校用』、『要説外国史』など	6	亀 井 長 五 郎
21	こねばち、火のし	2	清 水 勝 治
22	『歴史写真』、『演芸と映画』など	27	宮 寺 正 男
23	『春秋左氏傳校本』十二	1	栗 原 保 稔
24	古文書、絵図類、写真	308	吉 川 正 夫
25	御殿雛、舞踊人形、桃太郎人形など	7	細 川 正 夫
26	象牙の聴診器、はかり、あんかなど	22	横 田 春 雄
27	千歯扱、この目台、木杯下賜状など	5	吉 田 信 夫
28	ひな人形	2	亀 井 長 五 郎
29	リヤカー、テレビ	2	木 村 正 二
30	『昭和の宰相』、『一億人の昭和史』	14	小 熊 正 夫
31	マルノコの歯、シャチマキ	2	梅 林 賢 三
32	「はんのう宿のあしおと」	2	小 川 郁 次 郎
33	「須田家日記」(翻刻)	4	野 口 正 元

平成9年度

	資 料 名	員数	寄 贈 者 名
1	うちわ(飯能の商店街配布)	38	平 沼 優
2	『石川酒造文書』(第1巻～7巻)	7	石 川 彌 八 郎
3	うちわ、「埼玉縣入間郡飯能町市街図」など	14	平 沼 優
4	箱枕、枕	4	武 本 和 枝
5	龍吐水、ポンプ	2	早 野 充 一
6	爛徳利(「根本山」)	1	細 井 陶 游
7	『安養山長沢寺落慶記念誌』	1	山 崎 一 郎
8	外とう	1	行 平 福 太 郎
9	『南方遥かなり』	1	都 築 ま つ
10	『万葉集東歌の世界』	10	綾 部 光 芳

	資 料 名	員数	寄 贈 者 名
11	馬七頭立て図小絵馬、馬一頭図小絵馬	2	小 板 徳 治
12	女拝み図絵馬	1	児 玉 威 雄
13	軒瓦、丸瓦、棟瓦	5	渡 辺 善 一郎
14	ヨキ、マサカリ、ナタ	4	小 林 杏 子
15	二重まわし、帽子、着物	5	宮 内 中 順 三
16	結納目録、飯能銀行新築絵葉書、典籍類など	18	田 中 須 喜 美
17	紙幣、硬貨、戦時貯蓄債券など	111	黒 須 利 夫
18	双木本家飯能焼コレクションなど	1,664	双 木 子 仙 太郎
19	埼玉県立博物館特別展図録『絵馬』など	2	金 崎 勝 年
20	『釣れ釣れ草』	2	木 平 山 沼
21	蚊帳	1	丸 山 沼
22	博物館のパンフレットなど	4箱	丸 山 沼
23	小西六配達部の箱、ガラス戸、板戸など	12	平 沼

平成10年度

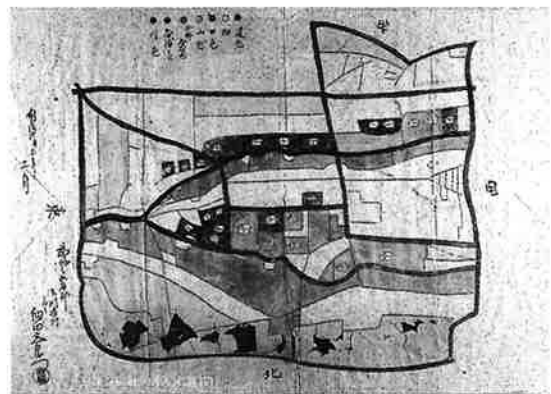
	資 料 名	員数	寄 贈 者 名
1	水彩画「飯能市旧市街の建物」など	10	小 島 喜 八 郎
2	南京陥落祝勝大行進参加要請ピラ	1	三 河 豊
3	写真（「永田の風景」、「敬老の日」など）	9	細 田 花 子
4	台紙付写真「飯能寺丁目青年音楽隊」	1	松 下 静 夫
5	パイプ、白檀の枝、紐	4	吉 澤 良 男
6	脱穀機	1	橋 爪 十 四 二
7	ペーゴマ、紐	26	小 山 八 重 子
8	吾野名所絵葉書、所沢実業学校絵葉書など	9	小 川 近 三
9	庄野潤三、石坂洋次郎などの葉書、封書	42	田 中 順 三
10	(儀式用)帽子	2	松 下 静 夫
11	写真（「旧市役所庁舎」など）、ビデオ	10	宮 岡 友 三 郎
12	『わたしたちの郷土』、写真など	2	中 村 桂 子
13	写真「第一飯能尋常高等小学校」	1	池 田 六 郎
14	徽章類、地図、絵葉書など	84	朝 日 昌 子
15	台紙付写真・写真（「飯能銀行外観」など）	4	吉 澤 律 子
16	東飯能駅のレール柱	3	市 生 涯 学 習 課
17	映画「東京オリンピック」パンフレットなど	2	亀 井 長 五 郎
18	加治青年団団報、『埼玉縣地誌略』など	3	吉 田 儀 一
19	写真「大六天」	1	小 島 博
20	「高麗峠」原稿、台紙付写真など	52	田 中 順 三
21	『核の20世紀』	1	吉 田 靖 新
22	のし瓦、棟のかぶせ瓦など	3	佐 々 木 理 夫
23	男性用革靴、女性用革靴、剣道着など	5	行 平 福 太 郎
24	帽子、ラッパ、鉄カブト、水筒など	20	小 川 近 子
25	台紙付写真（「葬列」など）	6	金 子 静 子
26	絵葉書、『太陽』、『考古学入門』など	26	亀 井 長 五 郎
27	「山車」写真複写フィルム	1	小 槻 成 克
28	飯能第一中学校関係文書、記録	198	飯能第一中学校
29	日露戦争中戦地からの手紙	1	木 下 俊 平
30	写真（「消防今昔展」、「私立飯能幼稚園職員」など）	4	双 木 茂 子
31	写真（「西武秩父線大久田の踏切」など）	8	石 森 佐 太 郎
32	ワインボトル	1	黒 田 幹 太 郎
33	飯能市連合青年団団旗	1	中 央 公 民 館
34	ガラス板写真、『写楽』	16	安 藤 幹 一
35	写真（「長沢小学校」、「武甲山」）	2	小 島 良 男
36	削り台の受け台(建具用)	1	山 川 清 次
37	写真「八高線鉄橋」	1	宮 岡 徳 治 郎
38	布製手提げ鞆、髪飾り具、巾着など	170	浅 見 誠 治
39	台紙付写真「靖国神社奉納」など	15	中 村 誠 源
40	『飯能銀行創業35年誌』	1	佐 野 敏 夫
41	蚕種紙	7	渡 谷 理 清
42	正蔵院(下赤工)文書	3	須 田 幸 一

購入資料

年度	資料名	数	作者名	製作年代	種類	
8	先込め管打ち式鉄砲	1	(金工：落合寿親)	明治18(1885)年	工芸	
9	鳶に蝗 <small>こまごま</small> 図香合	1	(金工：落合寿親)	江戸末～明治中期	工芸	
	近代史料 (絹織物工場「大原屋」文書)	1191			古文書	
	飯能焼 梅樹文壺	1			江戸後期～明治中期	工芸
	// 松樹文德利	1			//	//
	// 瓢形小鉢	1			//	//
	// 波千鳥文四方片口	1			//	//
	// 氷花文德利	1			//	//
// 瓢文德利	1	//	//			
10	飯能焼 麦文小皿	5		江戸後期～明治中期	工芸	
	入間郡地図	1		大正期	絵図	
	川寺村絵図	1		明治初期	//	
	下川崎村絵図	1		明治4(1871)年	//	
	白子村御縄打水帳	2		寛文8(1668)年	古文書	
	下我野村御縄打水帳	5		//	//	



飯能焼 麦文小皿



下川崎村絵図 (明治4年)

整理・保存

郷土館には、市民から寄贈されたり、購入したりして収集された飯能市の歴史や文化、風土に関するモノ資料、地域情報が集積されている。現在カードもしくは目録の作成が済んでいる資料の内訳は以下のとおりである。

民具	古文書等	古写真	絵画	工芸	考古	映像	図書	その他
5,182	21,473	2,323	209	154	1,087	164	8,981	582

※扶番が付いているものも
1点として数えた場合の数

これらは、主に特別展や学習会などの郷土館主催の事業に資料として利用されるだけでなく、学校の教材として、あるいはまちづくり計画作成や研究活動の資料として利用されている(P36参照)。現在の飯能市域に生きた人たちがたどってきた跡を示している郷土館の資料は、飯能の風土や自然、歴史を反映した形で存在しているはずであり、それは飯能ならではの地域情報といえよう。こうした地域情報を活用するために必要なのが「整理」作業である。この作業を経て職員がいつでも簡単に必要な資料を探し当てることができるようになり、市民の利用に供することができるのである。資料の性質によってその流れは若干違いがあるが、おおよそ以下の通りである。

I 資料の整理

① 民具

民具は、搬入されるとまず受け入れ台帳に登録され、それぞれに固有の番号が付けられる。その後資料名、寄贈者氏名、住所、寄贈年月日などのほか、寄贈者から聞き取りをした、民具を製作したときの状況や使用した時期、使い方などの情報が民具カードに記録される。さらに写真を添付し、資料にナンバーを注記したのちに収蔵庫へ収めている。

② 古文書等(近世・近代史料)

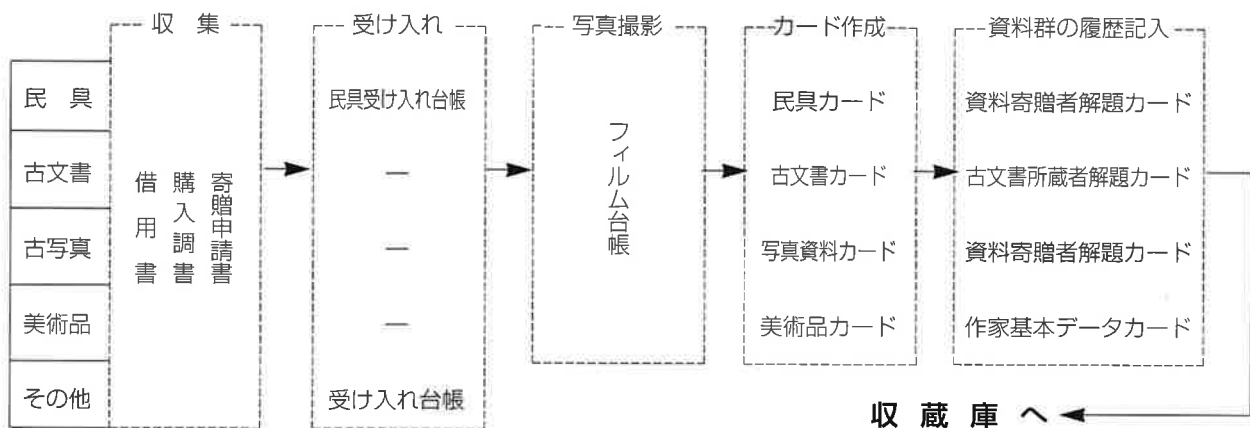
これらのほとんどは昭和49(1974)年から開始された飯能市史編さん事業の過程で収集されたものである。平成7年2月より所蔵者別に番号を付番しなお

し、同時に資料を1点ずつ中性紙の封筒に入れるといった保存処置を施しながらの再整理を現在も行っている最中である。また分類については、近世文書・近代文書・典籍でそれぞれ別個の項目を立てている。

③ 古写真

平成10年度秋に開催された特別展「時の記憶 ー飯能の写真展ー」では、写真が歴史を理解するための資料として非常に有効であることを示したが、これをきっかけとして、以降積極的に収集しているところである。収集にあたっては、広報はんのうで呼びかけたり、老人クラブにちらしを配布したりして

〔整理作業の流れと記録される資料情報〕



資料の種類別 地区名	民具		古文書等		古写真	
	家数	点数	家数	点数	家数	点数
吾野	20	144	21	1,384	13	112
東吾野	20	258	19	2,335	6	309
原市場	22	233	26	2,693	11	145
南高麗	28	651	20	652	5	130
加治	44	648	24	3,359	28	576
旧飯能	121	2,516	86	8,711	61	927
精明	44	644	21	1,727	14	77
市外	15	40	4	612	7	47
その他	26	48	0	0	0	0
合計	340	5,182	221	21,473	145	2,323

市民の応募に頼ることにしたが、結果として多くの写真を収集することができた。

これらは複写して所蔵者などからその写真について聞き取りを行ったのち、1点1点カードを作成し、写真の内容や場所、撮影年月日、撮影者などを記録している。

このほか、開館前に旧社会教育課で撮影した文化財関係の写真、市史編さんの過程で撮影したもの、広報係で撮影した昭和30～50年代の写真なども収蔵している。

④絵画

市民から寄贈される資料や購入したものの中には、軸装や額、屏風などに仕立てられた日本画や油彩、デッサンといった近代絵画も含まれている。これらについてもカード化し、整理を行っている。

⑤工芸

工芸資料には、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションや落合寿親の手による香合、日本刀などがある。

⑥考古資料

考古資料については、市民から寄贈を受けた一部のもの(飯能焼原窯表採資料など)を除き、教育委員会生涯学習課文化財係で発掘調査報告書の作成が終了し移管されたものを収蔵している。しかし収蔵庫のスペースに余裕がなくなってきたため、平成6年よりその受け入れを中止している。

⑦その他の資料

当館には、このほか埼玉県や近隣市町村の博物館、市の機関などから発行された図録、報告書、要覧な

どの図書類がある。これらについては発行機関別に受け入れ台帳を作成しており、このうち一部については、図書室に配架し閲覧できるようになっている(寄贈機関名はP56参照)。また、飯能に関係するビデオソフトや記録映像として価値のあるもの、さらにはレコードやテープといった音声資料も収集している。これらの資料についても台帳が作成され、利用ができるようになっている。

II 資料の保存

整理作業を経て収蔵庫に収蔵された資料は、市民の財産として未来に受け継いで行かなければならず、これも郷土館の重要な使命である。そのために、収蔵庫の環境調整や保存処置、燻蒸殺虫などを定期的に行っている。一般収蔵庫の方には主に民具、工芸品、絵画、考古資料を、特別収蔵庫には古文書と典籍類、絵画などのほか、脆弱な資料を収蔵している。いずれも資料の種類ごとに分類して保存されている。各収蔵庫は温湿度計によって温度・湿度の状態が常に記録され、資料の保存に適した環境を維持するべく配慮されている。また収蔵庫は3年に1度燻蒸殺虫消毒を実施している。



調査・研究

調査研究活動は、当館のような博物館施設にとっては最も基本となるものであり、この活動が教育普及事業を支え、資料の収集・保存を体系化していく助けとなる。今のところ特別展に関わる調査を除いては、人員、体制上、一過性の調査が行われているのみであり、体系的、総合的な調査活動を行うには至っていない。しかしながら、特別展の調査を歴史情報として後世に残していくことは少しずつ始められている。また、郷土館には地域の情報センターとしての役割もあり、いつでも誰でもこういった地域情報を引き出せる形にしておくことも必要なことである。さらに、郷土館の活動そのものが地域の歴史を形成していくことになるという視点から、展示や学習会などについても後にその準備過程や考え方がわかるような形で記録しておくことを心がけている。

①特別展に関する調査

特別展を開催するためには、そのテーマに関係する資料の調査が必要不可欠である。その調査結果は基本的に1点ごとにカードにまとめられ、展示会の開催とともにこうした資料情報が蓄積されていく。これらも地域情報のひとつと考えられるが、平成8年度「飯能の刀匠」展、平成9年度の「祈りのメッセージ」展、平成10年度の「高麗の里の独楽展」、「時の記憶」展についてはデータが整理されている。

②古写真に関する調査

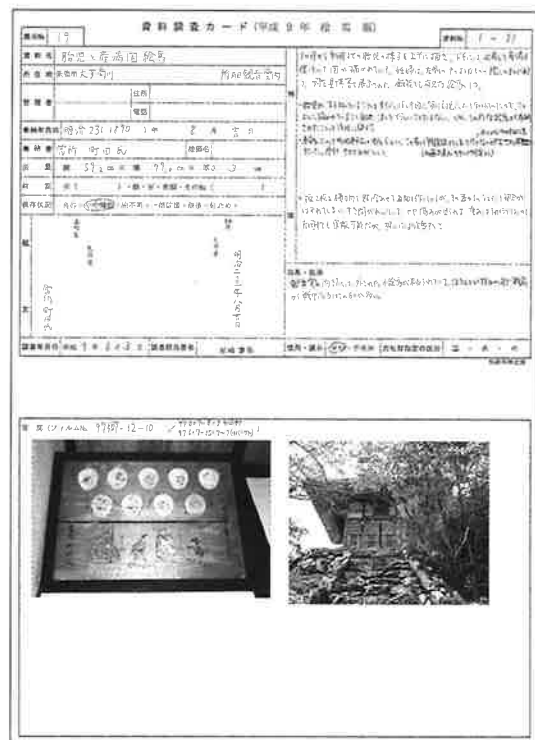
平成10年度秋の特別展「時の記憶 一飯能の写真展一」に際して収集された写真は、戦後間もなく設立された団体の50年記念誌発行のため、あるいは小中学生の学習教材などとして広く利用されている。平成11年度以降も引き続き、収集を継続していく予定である。

③飯能焼に関する調査

平成6年春に開催された飯能焼展以降、飯能焼原窯周辺の発掘調査なども実施され、飯能焼の所在情報、関連資料、出土事例といった情報が少しずつではあるが、集まり始めている。これらは飯能焼伝世資料カード・出土遺跡カード・所蔵者カードなどに記録される。当館では飯能焼を取り組むべき一大テーマとして位置づけ、今後も調査を継続していく予定である。

④その他の調査

民具や古文書などの資料を収集した際に、その資料や所蔵していた家、あるいは地域の昔の様子などについて聞き取り調査を行うが、その結果もあとで参照できるようにまとめている。人々の記憶に残っている地域の歴史情報は、その人がなくなってしまうと消滅してしまうものなので、こういったオーラルヒストリーの収集も緊急を要する調査と考えられる。



「祈りのメッセージ」展資料調査カード

郷土館協議会

郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため飯能市郷土館協議会がおかれている(飯能市郷土館条例第10条)。協議会は市議会議員、学校教育の関係者、社会教育の関係者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任期：平成6年7月1日～平成8年6月30日

(委員名簿)

職名	氏名	役職	備考
会長	井上峰次	飯能郷土史研究会会長	
副会長	大野邦弘	飯能市郷土館友の会会長	
委員	浜中勇	市議会議員	
//	栗原武夫	南高麗小学校長	平成8.3.31退任
//	岡部常高	双柳小学校長	平成8.4.1就任
//	大高秀夫	加治小学校長	平成8.3.31退任
//	永島信敬	飯能西中学校長	平成8.4.1就任
//	加藤義雄	文化財保護審議委員	
//	杉田多可雄	社会教育委員	
//	坂口和子	日本石仏協会会長	
//	滝 鍊太郎	彫刻家	
//	桑山和子	日本ペンクラブ会員	

開催状況

平成8年度

第1回 平成8年5月21日(火)午後2時～

(協議事項)・先進地視察研修について

〔視察研修〕平成8年5月28日(火)・29日(水)

千葉県市原市、大多喜町、君津市

28日…飯香岡八幡宮、上総国分寺、
国分尼寺(市原市)など

29日…千葉県立総南博物館(大多喜町)、
君津市立久留里城址資料館

任期：平成8年7月1日～平成10年6月30日

(委員名簿)

職名	氏名	役職	備考
会長	井上峰次	飯能郷土史研究会会長	
副会長	大野邦弘	飯能市郷土館友の会会長	
委員	浜中勇	市議会議員	平成9.5.31退任
//	高山国雄	//	平成9.6.1就任
//	岡部常高	双柳小学校長	平成9.3.31退任
//	早川康弘	飯能第一小学校長	平成9.4.1就任
//	永島信敬	飯能西中学校長	平成9.3.31退任
//	清原惟千	吾野中学校長	平成9.4.1就任
//	加藤義雄	文化財保護審議委員	
//	杉田多可雄	社会教育委員	
//	坂口和子	日本石仏協会会長	
//	滝 鍊太郎	彫刻家	
//	桑山和子	日本ペンクラブ会員	

開催状況

平成8年度

第2回 平成8年7月12日(金)午後2時～

(協議事項)・郷土館協議会委員の委嘱について

・「猫・ねずみ」展結果報告

・平成8年度秋の特別展の進行状況について

第3回 平成8年11月20日(水)午後2時～

(協議事項)・平成9年度の特別展について

・平成9年度の予算について

第4回 平成9年1月29日(水)午後2時～
(協議事項) ・平成9年度の予算結果について

・平成9年度の事業計画について
・平成10年度以降の事業について

平成9年度

第1回 平成9年6月10日(火)午後2時～
(協議事項) ・春の特別展「明治ハイカラ美人」結果報告
・秋の特別展「飯能の絵馬」(仮称)進捗状況
・燻蒸消毒に伴う臨時休館について

第3回 平成9年11月18日(火)午後2時～
(協議事項) ・平成10年度の事業計画及び予算について
・平成10年度先進地視察研修について

第2回 平成9年9月25日(木)午後2時～
(協議事項) ・秋の特別展「祈りのメッセージ」について
・職人・芸術家作品展示要領について

第4回 平成10年3月5日(木)午後2時～
(協議事項) ・常設展示等企画委員会報告案について
・平成10年度春の特別展について

平成10年度

【視察研修】 平成10年5月28日(木)・29日(金)
静岡県静岡市、神奈川県平塚市
28日…静岡市立登呂博物館
29日…静岡市文化財資料室、平塚市
博物館など

第1回 平成10年6月4日(木)午後2時～
(協議事項) ・常設展示等企画委員会報告について
・春の特別展「高麗の里の独楽展」結果報告

任期：平成10年7月1日～平成12年6月30日

(委員名簿)

職名	氏名	役職	備考
会長	井上峰次	飯能郷土史研究会会長	
副会長	大野邦弘	飯能市郷土館友の会会長	
委員	高山国雄	市議会議員	
//	早川康弘	飯能第一小学校長	
//	清原惟千	吾野中学校長	
//	加藤義雄	文化財保護審議委員	
//	杉田多可雄	社会教育委員	
//	坂口和子	日本石仏協会会長	
//	滝 錬太郎	彫刻家	
//	桑山和子	日本ペンクラブ会員	

(平成10年度末現在 在任委員)

開催状況

平成10年度

第2回 平成10年9月22日(火)午後2時～
(協議事項) ・秋の特別展「時の記憶」について
・平成11年度事業計画等の概要について

第3回 平成10年11月25日(水)午後2時
(協議事項) ・平成11年度事業計画及び予算について
・平成11年度春の特別展について

第4回 平成11年2月25日(木)午後2時～
(協議事項) ・「収蔵品展」について
・資料寄贈の取扱いについて

常設展示等企画委員会

当館も平成11年には開館10年目を迎えることになるが、常設展示の展示替えや施設の拡張などの課題も明らかになってきている。そこで有識者によりそれを検討するために、5人の委員を委嘱した。任期は平成8年度、9年度の2年間である。企画委員会では、常設展示及び当館の施設・運営に関するアンケート(自己点検シート)を郷土館協議会委員、当会委員、郷土館職員に配布した。そしてその結果を集計することによって課題を明らかにし、5回の手直しを経て今後の方向性を報告書にまとめ、郷土館協議会に提案した。

この中では、

- ①飯能市の博物館としてのアイデンティティが弱い。
- ②生涯学習活動の拠点としての役割を十分に果たしていない。

との現状分析に立ち、それを解決するために以下の提言なされている。

- a 運営方針を定めること
- b 学芸スタッフを増強すること
- c 常設展示の展示替えを行うこと
- d 資料の収集・保存、調査研究などバランスのとれた活動を行うこと
- e 増築の必要性があること

(委員名簿)

職名	氏名	役職
座長	井上峰次	飯能市郷土館協議会会長
委員	大野邦弘	飯能市郷土館協議会副会長
//	山口晋平	名栗川金属文化の会代表
//	小沢正光	博報堂
//	保坂裕興	駿河台大学文化情報学部専任講師

開催状況

平成8年度

- 第1回 平成8年8月31日(土)午後1時45分～
(協議事項)・検討会設置趣旨の説明
・飯能地方の歴史
・質疑応答、フリートーキング

- 第2回平成8年11月16日(土)午後2時～
(協議事項)・当館の問題点について

- 第3回 平成9年2月15日(土)午後2時～
(協議事項)・1、2回のまとめと今後の予定について

平成9年度

- 【先進地視察】** 平成9年5月17日(土)
戸田市立郷土博物館、朝霞市博物館

- 第1回 平成9年8月23日(土)午後2時～
(協議事項)・視察を踏まえての意見交換
・委員会報告書の方向について

- 第2回 平成10年1月31日(土)午後2時～
(協議事項)・自己点検シートの結果について
・委員会報告案について

- 第3回 平成10年3月21日(土)午後5時～
(協議事項)・報告最終案のとりまとめ

博物館実習

当館では、市民サービスの一貫として大学の学芸員養成課程の博物館実習を実施している。少ないスタッフのため、市内在住者に限り受け入れている。

平成8年度

実習期間 平成8年7月30日(火)～8月14日(水)[14日間]

実習者名 板橋恵民(武蔵大学)・堤知明(駒澤大学)・長谷川友洋・吉村邦生(駿河台大学)

	月日	曜日	午 前	午 後
1	7/30	火	埋蔵文化財出土品展準備	
2	7/31	水	//	
3	8/1	木	//	
4	8/2	金	//	
5	8/3	土	夏休み子ども歴史教室準備	
6	8/4	日	埋蔵文化財出土品展準備	
7	8/6	火	資料の梱包	写真撮影
8	8/7	水	夏休み子ども歴史教室運営	絵画資料の整理
9	8/8	木	//	//
10	8/9	金	絵画資料の整理	夏休み子ども歴史教室運営
11	8/10	土	施設について	
12	8/11	日	絵画資料の写真整理	
13	8/13	火	近世・近代文書の整理	
14	8/14	水	資料の梱包	写真の講評・まとめ



埋蔵文化財出土品展の準備 (平成8年度)



夏休み子ども歴史教室の指導 (平成9年度)

平成9年度

実習期間 平成9年7月29日(火)～8月9日(土)[10日間]

実習者名 大矢久代(駿河台大学)・若島直美(白梅学園短期大学)

	月日	曜日	午 前	午 後
1	7/29	火	施設について	
2	7/30	水	展示について(埼玉県立民俗文化センターの見学)	
3	7/31	木	夏休み子ども歴史教室準備	
4	8/1	金	//	
5	8/3	日	//	
6	8/5	火	夏休み子ども歴史教室準備	
7	8/6	水	夏休み子ども歴史教室指導	資料の整理、梱包材づくり
8	8/7	木	//	夏休み子ども歴史教室準備
9	8/8	金	//	夏休み子ども歴史教室まとめ
10	8/9	土	近世・近代文書の整理	

平成10年度

実習期間 平成10年7月29日(水)～8月11日(火)[12日間]

実習者名 加藤貴良(敦賀短期大学)・見留香(明治大学)・本橋貴洋(国土館大学)

	月日	曜日	午 前	午 後
1	7/29	水	当館の概要説明	施設・常設展示について
2	7/30	木	夏休み親子歴史教室準備	
3	7/31	金	埋蔵文化財出土品展の準備	
4	8/1	土	夏休み親子歴史教室運営	埋蔵文化財出土品展の準備
5	8/2	日	//	//
6	8/3	月	埋蔵文化財出土品展の準備	
7	8/4	火	資料(工芸品)の梱包	
8	8/5	水	夏休み親子歴史教室準備	
9	8/7	金	夏休み親子歴史教室準備	収蔵資料の計測、撮影
10	8/8	土	来館者動向調査準備	来館者動向調査
11	8/9	日	夏休み親子歴史教室運営	夏休み親子歴史教室まとめ
12	8/11	火	資料(工芸品)の梱包	実習のまとめ

第3章 各種データ

CHAPTER 3

入館者数

月	平成8年度			平成9年度			平成10年度		
	開館日数	入館者数	1日平均	開館日数	入館者数	1日平均	開館日数	入館者数	1日平均
4	25	3,450	138	25	3,405	136.2	25	3,643	145.7
5	27	3,840	142.2	27	2,451	90.8	27	3,598	133.3
6	26	2,695	103.7	25	2,011	80.4	25	1,551	62
7	26	2,753	105.9	22	1,832	83.3	22	1,672	76
8	27	3,004	111.3	27	2,361	87.4	26	2,957	113.7
9	25	2,164	86.6	24	1,681	70	24	2,285	95.2
10	26	3,188	122.6	26	2,854	109.8	27	3,071	113.7
11	26	3,508	134.9	26	2,871	110.4	24	3,287	137
12	23	1,432	62.3	22	1,192	54.2	23	1,388	60.3
1	22	2,217	100.8	22	1,640	74.5	23	1,781	77.4
2	23	1,928	83.8	23	2,012	87.5	23	1,705	74.1
3	25	1,911	76.4	26	1,832	70.5	26	2,749	105.7
合計	301	32,090	106.6	295	26,142	88.6	295	29,687	100.6

(入館者数算出方法)

カウンターを入口に設置しその人数に団体の
見学人数を加えて入館者を算出。

平成2年度～平成10年度までの

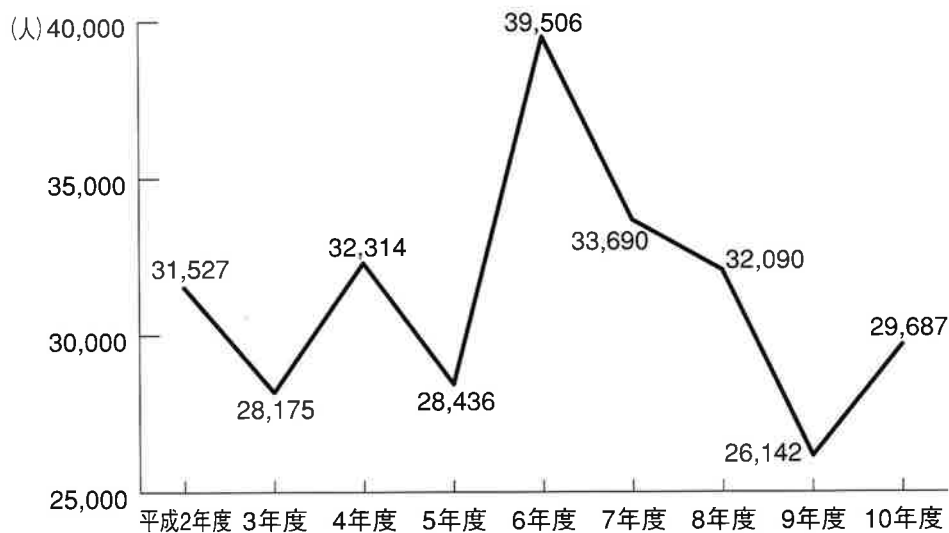
総入館者数 281,567人

開館日数 2,659日

年平均入館者数 31,285.2人

1日平均入館者数 105.9人

〈入館者数の推移〉



歳出予算

費目等 年度	管理運営費	教育普及費	収集保存費	資料整理費	調査研究費	合計(千円)	A	B(円)	C(円)
8	11,014	11,987	1,019	1,536	632	26,188	0.12%	324.9	816.1
	42%	46%	4%	6%	2%				
9	11,942	9,968	2,643	1,512	566	26,631	0.11%	326.8	1,018.7
	45%	37%	10%	6%	2%				
10	10,608	7,574	2,566	1,754	663	23,165	0.10%	282.7	780.3
	46%	32%	11%	8%	3%				

(人件費は除く)

A：飯能市一般会計当初予算に対する比率

B：市民1人あたり(当該年度の4月1日現在の人口)の郷土館予算額

C：入館者1人あたりの郷土館予算

〈費目の説明〉

管理運営費…事務用消耗品費・光熱水費・清掃委託料・庁用車の車検費用・施設の修繕費・郷土館協議会委員報酬などのランニングコスト。

教育普及費…特別展・学習会・講演会など教育普及事業のための費用。

収集保存費…資料購入費・資料寄贈御礼・資料保存用消耗品費・燻蒸委託料など資料の収集保存に関わる費用。

資料整理費…資料整理賃金・資料整理用消耗品費・写真代など資料整理のための費用。

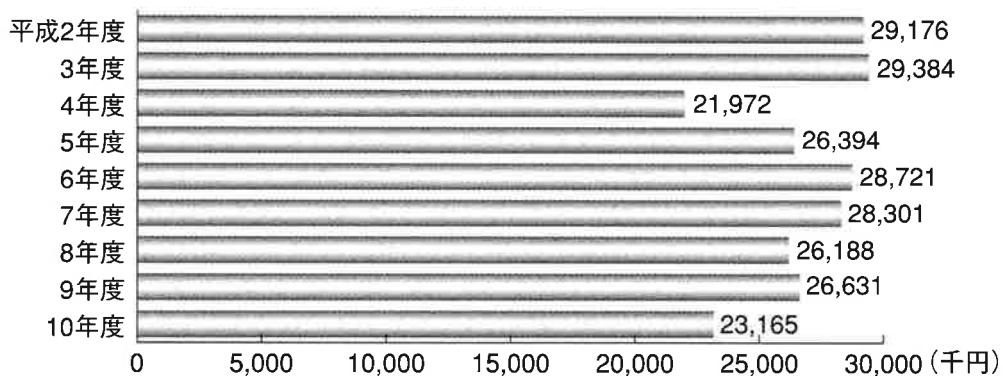
調査研究費…資料調査旅費や研修会参加費など調査研究活動のための費用。

※第1号とは費目の分け方が異なるが、おおよそ以下のように対応する。

第1号の管理費、運営費→管理運営費に該当する。

※ 収集保存費→収集保存費、資料整理費に該当する。

〈予算額の推移〉



図書資料寄贈機関(平成8年度～10年度)

埼玉県

上尾市教育委員会	川越市立博物館	狭山市立博物館
朝霞市教育委員会	川口市教育委員会	菖蒲町教育委員会
朝霞市博物館	川口市史編さん室	庄和町遺跡調査会
伊奈町	川島町	杉戸町教育委員会
入間市教育委員会	北本市教育委員会	草加市
入間市博物館	行田市教育委員会	鶴ヶ島市教育委員会
入間市遺跡調査会	行田市郷土博物館	鶴ヶ島市遺跡調査会
岩槻市教育委員会	熊谷市立図書館	都幾川村教育委員会
浦和市	鴻巣市	所沢市教育委員会
浦和くらしの博物館民家園	江南町遺跡調査会	戸田市
浦和市立郷土博物館	江南町教育委員会	戸田市立郷土博物館
大井町教育委員会	児玉町教育委員会	長瀨町教育委員会
大井町立郷土資料館	さいたま川の博物館	新座市立歴史民俗資料館
大井町遺跡調査会	埼玉県教育局	日本工業大学工業技術博物館
大宮市	埼玉県茶業技術協会	鳩ヶ谷市立郷土資料館
大宮市立博物館	埼玉県平和資料館	鳩山町教育委員会
大宮市立漫画会館	埼玉県立近代美術館	蓮田市教育委員会
小鹿野町教育委員会	埼玉県立さきたま資料館	花園町教育委員会
小川町教育委員会	埼玉県立自然史博物館	日高市教育委員会
桶川市歴史民俗資料館	埼玉県立博物館	富士見市教育委員会
春日部市教育委員会	埼玉県立埋蔵文化財センター	富士見市立考古館
春日部市郷土資料館	埼玉県立民俗文化センター	三郷市
神泉村	埼玉県立文書館	宮代町教育委員会
上里町教育委員会	埼玉県立歴史資料館	宮代町郷土資料館
上福岡市教育委員会	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	三芳町教育委員会
上福岡市立福岡河岸記念館	さいたま水族館	三芳町立歴史民俗資料館
上福岡市立歴史民俗資料館	さいたま文学館	毛呂山町教育委員会
川越市教育委員会	坂戸市教育委員会	毛呂山町歴史民俗資料館
	坂戸市遺跡発掘調査団	八潮市
	幸手市	八潮市立資料館
	幸手市教育委員会	吉川市教育委員会

与野市教育委員会
寄居町教育委員会
嵐山町教育委員会
立正大学地域研究センター
和光市教育委員会
蕨市立歴史民俗資料館

東京都

あきるの市雨間地区遺跡調査会
荒川区教育委員会
池之端七軒町遺跡調査会
板橋区教育委員会
板橋区立郷土資料館
青梅市教育委員会
青梅市郷土博物館
大田区立郷土博物館
葛飾区郷土と天文の博物館
学習院大学史料館
新宿歴史博物館
杉並区立郷土博物館
世田谷区教育委員会
千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会
台東区文化財調査会
立川市教育委員会
多摩市
(財)多摩市文化振興財団
(財)たましん地域文化財団
(株)丹青研究所文化空間研究所
調布市教育委員会
調布市郷土博物館
東京都江戸東京博物館

東京都江戸東京たてももの園
豊島区教育委員会
豊島区立郷土資料館
八王子市郷土資料館
羽村市郷土博物館
日野市ふるさと博物館
福生市教育委員会
文京ふるさと歴史館
町田市立自由民権資料館

瑞穂町郷土資料館
港区立港郷土資料館
武蔵村山市
武蔵村山市教育委員会
武蔵村山市立歴史民俗資料館
明治大学刑事博物館
明治大学考古学博物館

その他

(財)赤穂文化振興財団
赤穂市立歴史博物館
東町立歴史民俗資料館
跡見学園女子大学花蹊記念資料館
小山市立博物館
各務原市歴史民俗資料館
笠懸野岩宿文化資料館
神奈川大学日本常民文化研究所
かみつけの里博物館
北橘村歴史民俗資料館
(財)君津郡市文化財センター
君津市
君津市立久留里城址資料館

国立歴史民俗博物館
群馬県立埋蔵文化財調査事業団
群馬県立歴史博物館
群馬県立歴史博物館友の会
群馬町教育委員会
斎宮歴史博物館
相模原市教育委員会
相模原市立博物館
渋川市教育委員会
島根県教育委員会
下関市立考古博物館
(財)新松戸郷土資料館
高岡市万葉歴史館
高崎市観音塚考古資料館
千葉市立加曽利貝塚博物館
津山郷土博物館
(社)日本電気協会
(社)日本ユネスコ協会連盟
葦山町
野田市郷土博物館
秦野市
秦野市立桜土手古墳展示館
平塚市博物館
藤沢市教育委員会博物館建設準備担当
北海道立北方民俗博物館
松戸市立博物館
水戸市立博物館
茂原市立美術館・郷土資料館
横浜開港資料館
立命館大学国際平和ミュージアム
(財)龍ヶ崎市文化振興事業団

刊行図書（平成8年度～10年度）

平成8年度

「猫・ねずみ ー絵ぞうし展ー」展示図録	B 5	48ページ
「飯能の刀匠 ー小沢正壽を中心としてー」展示図録	A 4	60ページ
飯能市郷土館館報 第1号	A 4	100ページ

平成9年度

「祈りのメッセージ ー飯能の絵馬ー」展示図録	A 4	60ページ
------------------------	-----	-------

平成10年度

「高麗の里の独楽展 ー昔遊びのすすめー」展示図録	B 5	54ページ
「時の記憶 ー飯能の写真展ー」展示図録	A 4	48ページ

職 員

平成8年度

館 長	宮前幸雄
主 任	加藤久美恵
学芸員	尾崎泰弘
〃	金子聡子
臨 時（事務）	櫻井なを子
臨 時（資料整理・特別展準備）	河井昌子
	石田朋子
	田嶋佐奈恵
臨 時（清掃）	井上茂樹

平成10年度

館 長	宮前幸雄
主 任	島田祐子
学芸員	尾崎泰弘
〃	金子聡子
臨 時（事務）	櫻井なを子
臨 時（資料整理・特別展準備）	河井昌子
	石田朋子
臨 時（清掃）	井上茂樹

平成9年度

館 長	宮前幸雄
主 任	加藤(村上)久美恵
学芸員	尾崎泰弘
〃	金子聡子
臨 時（事務）	櫻井なを子
臨 時（資料整理・特別展準備）	河井昌子
	石田朋子
	田嶋佐奈恵
臨 時（清掃）	井上茂樹



飯能市郷土館条例

(平成元年12月27日条例第33号)

(設置)

第1条 郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料（以下「資料」という。）の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館（以下「郷土館」という。）を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(業務)

第2条 郷土館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- 二 資料の調査及び研究に関すること。
- 三 資料の展示及び利用に関すること。
- 四 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
- 五 その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(管理)

第3条 郷土館は、飯能市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が管理する。

(職員)

第4条 郷土館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 郷土館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 月曜日（この日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）である場合を除く。）
 - 二 休日の翌日（この日が日曜日又は休日である場合を除く。）
 - 三 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで
- 2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第6条 郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号の一に該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。

- 一 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- 二 その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。

(使用料)

第8条 郷土館の使用料は、無料とする。

(損害賠償)

第9条 郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部または一部を免除することができる。

(郷土館協議会)

第10条 郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の組織)

第11条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。
2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- 一 市議会議員
- 二 学校教育の関係者
- 三 社会教育の関係者
- 四 学識経験者

(委員の任期)

第12条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第14条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。
2 協議会は、委員の二分の一以上が出席しなければ会議を開くことができない。
3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第15条 協議会の庶務は、郷土館において処理する。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。

飯能市郷土館条例施行規則

(平成2年3月31日教委規則第5号)
(改正平成4年11月30日教委規則第7号)
(改正平成10年3月23日教委規則第6号)

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市郷土館条例（平成元年条例第33号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市郷土館（以下「郷土館」という。）に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室（以下「学習室等」という。）は、郷土館の目的にそつた研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等（図書室を除く。）を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書（様式第一号）を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書（様式第二号）を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(郷土館資料の利用及び許可)

第5条 郷土館の資料（以下「資料」という。）は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書（様式第三号）を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書（様式第四号）を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、利用の条件を変更し、又は利用の許可を取り消すことができる。

一 利用許可の申請に偽りがあったとき。

二 条件又はこの規則に違反したとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第7条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書（様式第5号）を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書（様式第6号）を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈したものに対して飯能市郷土館資料受領書（様式第7号）を、資料を寄託したものに対して飯能市郷土館資料受託書（様式第8号）を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附則（平成4年教委規則第7号）

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附則（平成10年教委規則第6号）

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

(以下、様式は省略)

印刷の仕様

- 1 版 型 A4判
- 2 紙 質 (表紙) マットコート紙 菊判 111kg
(口絵) ッ 菊判 76.5kg
(本文) クリームキンマリ 菊判 62.5kg
- 3 印刷方法 オフセット印刷 4色刷り(表紙) 2ページ
1色刷り(本文) 60ページ
- 4 印刷内容 カラー写真 5枚
モノクロ写真 41枚
図版 4枚
- 5 スクリーン線数 175線
- 6 製 本 あじろ製本
- 表紙 絵: 小島喜八郎氏

飯能市郷土館館報第2号

平成12(2000)年3月31日発行

発行 飯能市郷土館

〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1

TEL(0429)72-1414

FAX(0429)72-1431

印刷 (株)文化新聞社

〒357-0035 埼玉県飯能市柳町12-1

TEL(0429)73-2525



飯能市郷土館

埼玉県飯能市大字飯能258-1

TEL (0429)72-1414 FAX (0429)72-1431